

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **70** 2019
November

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.13

西日本医科学学生
総合体育大会が開催されました



Contents

特集

理事長・学長からのメッセージ vol.13	3
西日本医科学生総合体育大会が開催されました	6
看護学科オープンキャンパス 2019 を開催しました	7
平成 30 年度計画及び中期目標期間の業務実績に関する評価結果	8
第 2 期中期目標期間 評価結果の概要	10
奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化に向けた研究者交流会を開催しました	12
From Nara to the World : A new generation of Nara Medical University students prepare to represent Japan	13
臨床英語講座と救急医学講座の共同研修	13
研究紹介	14
MBT 研究所だより (第 14 報)	16
図書館だより	17
未来への飛躍基金だより	18
退任の挨拶	19

Campus News

APPSJAPAN (アプリジャパン) 2019 に MBT 研究所が出展しました	19
産学連携学会で MBT のオーガナイズドセッションを行いました	19
MBT 技術交流会に向けて	20
ケンタッキー大学からペニパッカー先生、ストゥー先生が来学されました	20
科学研究費助成事業応募申請に係る講習会を開催しました	20
古家病院長に漢方外来のインタビューがありました	20
同志社女子大学と共催で院内コンサートを開催しました	20
MBT 研究所とマレーシアアトラ大学 (UPM) が連携を開始	21
米国 University of Houston から梅深通久先生が来学されました	21
職員向け賃貸住宅「マブライム」の竣工式が行われました	21
ルール大学 (ドイツ) から 2 人の実習生が来学しました	22
第 2 回 奈良臨床漢方医学セミナー (産婦人科領域編) を開催しました	22
学報編集委員会からのお知らせ	22
「奈良医大メディカルサマープログラム」を開催しました	23
ふれあい看護体験を実施しました	23
令和元年度看護学科国際看護論Ⅱ チェンマイ海外研修報告	23
MBT 研究活動の積極的な展開	23
「特別支援学校と病院を結ぶアート展」を開催しました	24
コンソーシアム実習 (奈良医大・早大連携講座) が開催されました	24
2019 夏の学生災害ボランティア活動	24
科研費獲得セミナーを開催しました	24
血栓止血医薬生物学共同研究講座の報告会を開催しました	25
高速多光子共焦点レーザー顕微鏡を導入しました	25
自衛消防訓練を実施しました	25
イノベーション・ジャパン 2019 ～大学見本市 & ビジネスマッチング～に出展しました	25
奈良県総合防災訓練に MBT 研究所が出展しました	26
海外からのポリクリ実習生を受け入れています	26
奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化委員会を開催しました	27
令和 2 年度科学研究費助成事業に係る講演会及び応募申請説明会を開催しました	27
公開講座「くらしと医学」を開催しました	27
MBT 研究所の『「歩く力」の見える化プロジェクト』を出展しました	27
MBT 連携企業の拡大と全国展開	28
解剖慰霊祭を執り行いました	28
実験動物慰霊祭を執り行いました	28
シーズ集を発行しました	28
MBT 技術交流会を開催しました	29
日本心臓ペースメーカー友の会で MBT の講演をしました	29
新キャンパス予定地及び現キャンパスにおける発掘調査	29
「女性のための再就職応援フェスタ」に出展しました	30
特定個人情報等の保護及び著作物等の利用に関する研修会を実施しました	30
学内保育園・なかよし保育園の紹介	30

Winner Report

第 24 回日本緩和医療学会学術大会において最優秀演題賞を受賞しました	31
第 127 回日本循環器学会近畿地方会における学生・初期研修医セッション (口演発表) で、優秀演題賞を受賞しました	31
第 41 回日本生物学的精神医学会で若手研究者育成プログラム最優秀奨励賞を受賞しました	31
若手研究者研究助成事業の採択について	31
奈良県警察本部より感謝状を授与されました	32
第 114 回日本神経学会近畿地方会で奨励賞を受賞しました	32
一般社団法人日本看護研究学会 2018 年度奨励賞を受賞しました	32
令和元年度 (第 2 回) 若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定 (国際交流センター)	32
2019 年度プリストル・マイヤーズ・スクイブ研究助成を受賞しました	32
令和元年度日本ハイパーサーミア学会研究奨励賞を受賞しました	33
令和元年度日本ハイパーサーミア学会優秀論文賞を受賞しました	33
奈良先端科学技術大学院大学との協定大学共同研究助成事業 助成者決定	33

Information

公開講座情報	33
奈良県立医科大学イメージキャラクターしょうとくた医師くんグッズが誕生！！	34
令和 2 年度 入試日程【医学部】	35

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございます	35
メディア掲載情報／編集後記	36

理事長・学長からのメッセージ vol.13

奈良医大が20年後も主たる大学であり続けるために

理事長・学長 細井裕司

1. 学長2期目の1年半の活動

平成30年4月に学長2期目に再選されてから、はやくも1年半が過ぎようとしています。その間にも、国による大学の選別・統合など、大学を取り巻く環境は急激に変化してきました。本学では、主たる大学であり続けるために様々な取り組みを行っています。この1年半を中心に、これまでの取り組みを下記にまとめましたのでご覧ください。

今後ともみなさまの温かいご支援とご協力をいただけると幸いです。

2. 指定国立大学を上回る世の中への貢献

奈良医大は指定国立大学ではありませんが、指定国立大学を上回る世の中への貢献を行い、世間に存在感を示したいと思っています。奈良医大の医学の力を、医療産業だけでなく、全産業に供与することによって、全国・世界にイノベーションを起こしていきたいと思っています。このMBTの取り組みの1つとして、北原教授（耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座）の国際誌に掲載された論文の内容が、昭和西川株式会社の「～耳石に優しい～睡眠頭位調節マットレス」として製品化され9月3日に発売されました。そして、その内容はNHKのガッテン!で10月23日に放送されました。私はこれまでも、「医学研究は人類のため、製品になって花開く」と述べてきました（MBT NEWS LETTER 第21号）。本件は、医学者の研究が単に論文にとどまらず、製品となって直接人々に恩恵をもたらすMBT活動の実現のひとつです。

多くの人の共感を得て、MBT活動がマスコミに取り上げられた回数は100件を超えました。奈良医大における参加教室数も33教室に増え、全学的、全国的（栃木県や北海道などにおけるMBT）、世界的（マレーシアなどにおけるMBT）な活動に発展しています。

3. 挨拶ができる人になろう！

世の中には、挨拶のできる人とできない人がいます。世間から評価される大学は、単に設備や学力、論文数だけではありません。みんながお互いを尊重して挨拶できることは優れた大学の重要な要素だと思います。本学のみなさんが、挨拶ができる人であってほしいと願っています。

学長2期目の主な取り組み（2018.4～）

●：1期目に始めた事業 青字：1期目に行った内容、黒字：2期目における進展

(注) 1期目に完成した事業は掲載していません。

●：2期目に開始した事業 ★：他学ではあまり行われていない、独自のアイデアに基づくユニークな事業や先進的な事業

1. 教育

●★ 入試改革：後期入試重視による偏差値トップ5の達成

→【2期目】偏差値（河合塾）1位～3位（後期）

●★ 臨床英語日本一を目指した英語教育改革

→【2期目】准教授、講師など教授以外の人材も native speaker を登用



●★ 海外や国内の有名研究機関での学生実習（リサーチクラークシップ）

→【2期目】研修大学・機関の拡大

● 関西公立医科大学・医学部連合、関西公私立医科大学・医学部連合の結成：連合によって奈良医大単独ではなし得ない事業の達成、卒業試験の共通化等の検討

→【2期目】卒業試験の共通化の試み進展（試験の実施開始）

● 看護学科の充実（在宅看護学の創設等）

→【2期目】成人看護学を急性期と慢性期に分離、慢性期教授職を新設、特定行為研修の充実

● THE 世界大学ランキングのランク入りをめざす。

→【2期目】2019年3月ランク入り達成、特に教育リソース分野で上位（1位東大、7位阪大、8位奈良医大と名古屋大、10位東工大）

●★ 入学式や白衣授与式における保護者説明会等（保護者とのコミュニケーションの充実によるマッチング率の向上をめざして）

→【2期目】保護者説明会の継続、医学科6年生の全保護

理事長・学長からのメッセージ vol.13

者に対する学長書簡（卒後教育における奈良医大の魅力の伝達）内容の充実



●★ 大学祭の学外実施（イオンモールなど）

→【2期目】継続実施（奈良医大健康フェア 2018, 2019 などを通じて地域との交流を積極的に展開）



●★【2期目】医師・患者関係学講座開講

●★【2期目】ミシガン大学との連携協定締結に基づいた奈良医大—ミシガン大学連携コース設置による大学院教育の充実



●【2期目】ハーバード大学の医学教育部門と連携協定

2. 研究

- けいなんな RC（文科省・JST の大型プロジェクト）にオーガナイザーとして参加し、各研究所と共同研究
→【2期目】研究進展、産学連携が進展、文科省・JST から高評価 参加企業増加、パイロット事業の伸展、3つのラボの完成
- 産総研、国循、WHO やけいはんな所在機関（ATR など）等有力研究機関との連携
→【2期目】WHO や NICT（情報通信研究機構）との共同研究進展
- ★ 研究の基本方針の制定（重点研究課題等）
→【2期目】血栓止血研究センター設置：血栓止血先端医学講座、血栓止血医薬生物学共同研究講座（寄附講座）、血友病教育講座（寄附講座）、血栓止血分子病態学講座（寄附講座）IVR 研究センター設置
- 優秀な研究者の育成支援、科研費獲得支援、若手・女性・医療スタッフの研究支援
→【2期目】大学院支援 15 人、科研費獲得 20 件増、女性 11 件増（対前年比）
- ★【2期目】高井病院に陽子線がん治療研究センター設置



- 【2期目】奈良先端大との研究内容マッチング、教授等教員の相互訪問（2019年1月～）
奈良先端大との共同研究助成事業（2019年6月～）
- 【2期目】中谷医工計測技術振興財団から6000万円×5年の寄附講座獲得、世界的に有名な教授を招聘

3. 診療

- ★ 全国から医師を集める制度（外科マスター、ドクターN など）
→【2期目】継続発展、外科マスター医の増加
- 最終ディフェンスラインの役割
→【2期目】救急患者病院紹介回数4回以上の割合が2.5%に減少、乳腺センター設置、奈良県難病診療連携拠点病院に指定

- 救急災害医療

- 【2期目】 充実、DMAT 隊チーム編成 1 チーム増加



- マッチング

- 【2期目】 奈良医大充足率 100% (全国 1 位)、奈良県の充足率 100% (マッチング史上全国初)

- 【2期目】 臨床研究中核病院を目指して、臨床研究センターの主任教授を選任

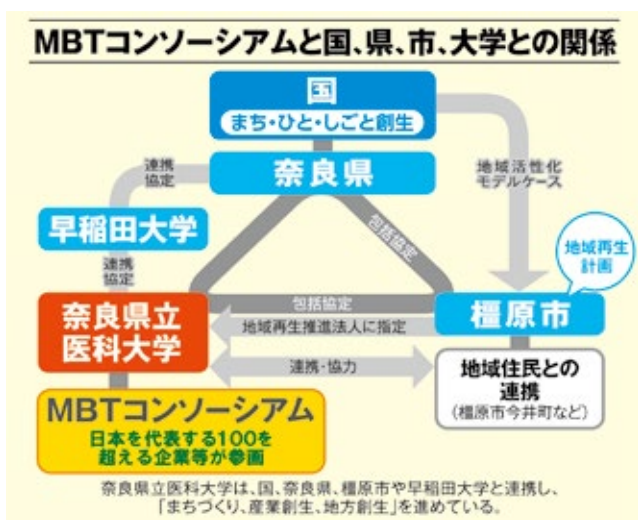
- 【2期目】 糖尿病・内分泌内科学講座の設置決定

- ★ 【2期目】 役員会に病院経営部会を設置 (病院長との連携強化、部会メンバーである病院長を通じて理事長・役員の見解を病院経営に反映)

4. 総合

- ★ MBT 構想 (医学による日本創生モデル) の推進: 国の省庁とのパイプ構築、民間活力の奈良医大への導入

- 【2期目】 MBT コンソーシアムメンバー企業・団体は 100 以上に増加、全国に広がる MBT (MBT 東京大会、栃木県における MBT など)、奈良医大発ベンチャー MBT リング設立 (全国医科大学中 2 番目のベンチャー設立)、MBT ロゴマークの付与 (医学論文内容の製品化、第 1 号としてめまい患者のためのマットレス発売)



- ★ 拡大奈良医大: 相手先費用負担により橿原市外に奈良医大連携大学院・研究所などを設置 (国立循環器病研究センター、市立奈良病院、阪奈中央病院)

- 【2期目】 奈良医大東京キャンパス (小林理学研究所に連携大学院設置)、陽子線がん治療研究センター (奈良県、高井病院に連携大学院設置)

- 未来への飛躍基金: 学生、教職員の能力を最大限に引き出すための各種施策に使用

- 【2期目】 1期目からの事業に加え、臨床研究中核病院のための資金援助

- 国際貢献: ベトナムへの医療援助協定

- 【2期目】 バックマイ病院の JICA プロジェクトの完成、プトラ大 (マレーシア、クアラルンプール) と MBT に関する連携協定締結

- 学内広報の活性化

- 【2期目】 理事長・学長からのお知らせの学内一斉メール、学報における理事長・学長からのメッセージを継続、MBT ニュースレターの創刊

- 女性活躍の推進

- 【2期目】 女性教員の登用促進 女性割合 2014 年→ 2019 年 医学部教員: 74 人 (21.3%) → 97 人 (25.4%)、医学科教員: 45 人 (14.3%) → 67 人 (19.4%)、附属病院 医師 (臨床研修医を除く): 115 人 (22.0%) → 181 人 (26.9%)

- 【2期目】 保育園の充実: 総定員 90 名→ 150 名に増加 (公立医科大学・医学部中最大) 0 歳児から 2 歳児までの保育室を備えた新館の完成、生後 57 日目からの保育可能



- 【2期目】 ミシガン大学との連携協定締結 (教育、研究、診療など包括的協定)

5. その他 (法人経営、資質の発揮度等)

- ★ 外部評価のため有識者委員会の設置

- 【2期目】 東京で委員会を開催

- 積極的な情報発信、広報の充実 (KCN テレビなど)

- 【2期目】 継続、MBT はマスメディアに取り上げられること 100 回以上

- 【2期目】 働きがいのある職場作りとして、フレキシブルな勤務システムの導入 (その日の勤務内容に応じて出勤時間の変更可能)

- 【2期目】 2018 (平成 30) 年度の決算において、7000 万円の黒字達成 (年度当初予想は 5 億円の赤字)

西日本医科学生総合体育大会が開催されました

～本学は総合 14 位 / 44 大学中～ 陸上部 女子 5000 m 優勝 (大会新記録)

今年も第 71 回西日本医科学生総合体育大会が開催されました。総合成績は 14 位でした。

競技別では、陸上部の女子 5000 m が大会新記録で優勝、男子バレーボール部が 3 位をはじめ優秀な成績をおさめました。

◇期 間：令和元年 8 月 5 日～ 8 月 20 日

◇主 管：関西ブロック

◇代表主管校：関西医科大学

◇参加大学数：計 44 校

◇競 技 数：20

競 技 名	成 績
硬式テニス	男子ベスト 4
	女子ベスト 8
軟式テニス	男女団体 1 回戦敗退
ラグビー部	1 回戦敗退
サッカー部	1 回戦敗退
野球部	1 回戦敗退
バドミントン部	男女団体 3 回戦敗退
卓球部	男子団体 1 回戦敗退
	女子団体 2 回戦敗退
男子バスケットボール部	1 回戦敗退
女子バスケットボール部	2 回戦敗退
男子バレーボール部	3 位
女子バレーボール部	1 回戦敗退
水泳部	総合 4 位
	50 m 自由形 3 位
弓道部	男子団体 5 位
	女子団体 22 位
ハンドボール部	ベスト 8
柔道部	団体ベスト 16
合気道部	団体 3 位 個人有段 1 位、3 位
空手部	男子団体 4 位
	女子個人 3 位
陸上部	男子総合 18 位
	女子総合 9 位
	女子 5000 m 優勝 (大会新記録)
ゴルフ部	男子団体 28 位
	女子団体 10 位
剣道部	男子団体ベスト 16
	女子予選リーグ敗退



バレーボール部

医学科 4 年 市村 善太

第 71 回西医体バレーボール部門は、8 月 8 日から 10 日まで大阪府で開催されました。本大会において奈良医大バレーボール部は、男子の部において 3 位入賞という結果を残すことができました。さらに大会審判団によって選考される個人賞において、ベストリベロが選出されました。西医体でメダルを獲得することは長年の悲願であり、それを達成するためにチーム一丸となって努力した日々は、何事にも代えがたい経験となりました。

バレーボールという競技は本当にすばらしいものです。その魅力の一つは、ボールを繋ぐという競技性から生まれるチームの一体感でしょう。これはコート内のみにとどまらず、部員全員で目標を共有しているからこそ味わえるものです。さらに「繋ぐ」という観点から、今の活動があるのも歴代のバレー部の先輩方が続けてこられた活動あつてのものだということ、改めて実感しました。

来年度について、今年卒業される先輩からは「金銀のメダルは君たちがとってくれ」という言葉をいただきました。先輩方から受け継いだものを、さらに「先」へ進められるよう、先輩たちを中心とする新たなチームに期待するばかりです。

今回このような結果を残すことができたのも、日頃からお力添えしてくださっている OB・OG の先生方のおかげです。この場をお借りして感謝申し上げます。来年度からも良い結果を残せるよう精進して参りますので、何卒よろしく願い致します。



陸上競技部

医学科 6 年 藤本 華奈

第 71 回西医体陸上競技部門は、8 月 9 日から 10 日まで大阪府で開催されました。たくさんの OB・OG の先輩方が応援に駆けつけてくださった特別な西医体となりました。また陸上競技部では毎年、10 大学以上で集まって合同練習や合同合宿を開催しています。試合のみならずこのような場で、自分自身との闘いに打ち克つために励まし合ってきた仲間というのは、種目や大学関係なしにかけがえない存在で、このラスト西医体は 6 年間で出会った全ての人への感謝を込めて力強い走りをと心に決めていました。そして女子 5000 m では、トラックを一周しても途切れないほどの声援が追い風となって第一位でゴールすることができました。

今年は 6 月に行われた第 34 回関西医科学生対校陸上競技選手権大会でも嬉しい結果が相次ぎました。女子 1500 m と 3000 m で 2 種目優勝、3000 m では大会新記録を樹立し、全出場者 434 名の中から MVP に選ばれました。さらに当大会で奈良医大が女子トラック部門で第 3 位に入賞できたことは、部活全体が活気づき切磋琢磨してこられた成果の表れだと思っています。男子でも優勝・入賞者が続出し、後輩達の今後の活躍がとて楽しみです。

一方、それぞれが悔しさを感じ改善点に気付かされたレースも多くなりました。新たな目標を見つけた部員もいます。ここで抱いた思いをバネに部員一同、より一層努力していく所存です。

最後になりましたが、このような結果を残すことができましたのも OB・OG の方々のお力添えがあつて伸び伸びと練習を積み重ねてこられてこそのことです。この場をお借りして感謝申し上げます。また、ご多忙のところ応援に来てくださった先輩方、本当にありがとうございました。これからも何卒、よろしく願い申し上げます。

看護学科オープンキャンパス2019を開催しました

7月27日に看護学科オープンキャンパスを開催し、450名近くの方にご参加いただきました。

はじめに、車谷医学部長から開催のご挨拶いただき、引き続き、石澤看護学科長から「看護学を学びたいと思う人へ」というテーマで看護学が始まった“原点”と、“看護の役割”、“本学の取り組み”について講演いただきました。



医学部長挨拶



看護学科長講演

参加者からの意見

- ・看護と看護学との関連性や今後の看護師の役割について、今後の活動の基礎となる項目であり、理解が深まった。
- ・奈良県立医科大学の特徴がわかってよかった。
- ・具体的なストーリーや症例があげられていて、分かりやすかった。

続いて、川上看護教育部長から学科紹介及び入試概要説明として、複雑な入試の仕組みなどを参加者にわかりやすく丁寧に説明いただきました。



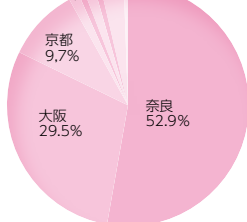
学科紹介及び入試概要説明会

参加者からの意見

- ・看護科と医学科が連携することによってチームワークが良くなるのがわかり、やはり実習内容が他の学校よりも良いと感じた。
- ・附属病院があるからこそその実習施設などもすごくいいなと思った。
- ・奈良医大にしかない強みがわかりやすい説明で理解できた。

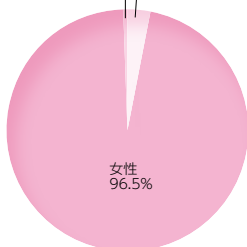
参加者の都道府県別

愛媛0.9%
和歌山1.3%
三重0.9%
兵庫1.3%



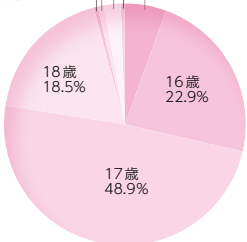
参加者の性別

未記入0.4%
男性3.1%



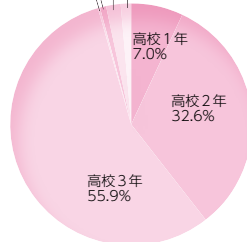
参加者の年齢別

未記入2.2%
20歳以上0.9%
19歳0.4%



参加者の学年別

中学生0.9%
予備校0.4%



今年の『模擬ミニ講義』は、公衆衛生看護学の城島教授に「保健師課程で公衆衛生看護学を学ぶ『地域診断の技術』」をテーマに講演いただきました。



模擬ミニ講義

参加者からの意見

- ・これからの看護師の将来像がわかりやすく伝わってきて、とても良い経験になった。
- ・実際の看護授業を受けることが出来て良かった。
- ・生活習慣病について詳しいことまで学べて良かった。

在学生、附属病院勤務の本学卒業生参加の『先輩からのメッセージ』は、教員や事務からは聞けないような事を聞ける絶好の機会となっており、毎年人気のプログラムです。

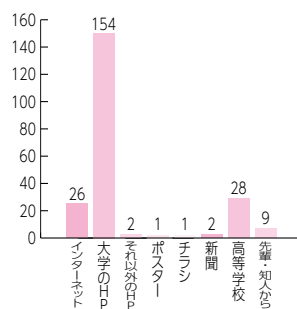
参加者からの意見

- ・実際に通学している方や働いている方の話をきく機会を設けて頂くことはなかなかないので、すごくありがたかったしわかりやすかった。
- ・聞いていて本当に楽しいんだなと思った。
- ・先輩たちからの生の声を聞けて、より、この大学に進学したいと思った。

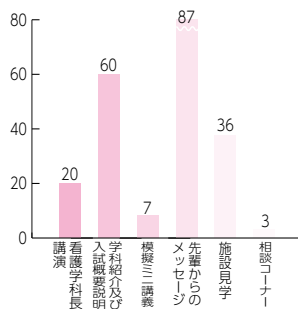


先輩からのメッセージ

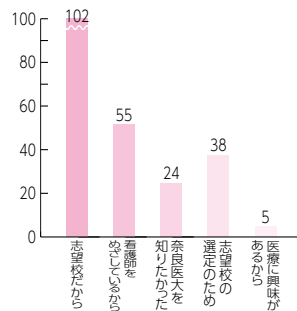
オープンキャンパスを知ったきっかけ



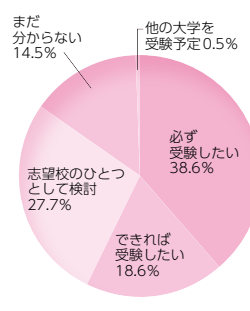
印象に残ったプログラム



オープンキャンパスに参加した動機



参加後の本学受験意識



平成30年度計画及び中期目標期間の業務実績に関する評価結果

第2期中期計画の最終年度（6年目）にあたる平成30年度計画、及び第2期中期目標期間の業務実績について、県の評価委員会による評価結果が通知されました。

平成30年度計画は、前年度に引き続き「おおむね実施している」と判断され、中期目標・計画の達成に向け全体としては「順調に進んだ」と評価を受けました。

また、第2期中期目標期間については、中期計画で定めた事業を「おおむね実施している」と判断され、中期目標・計画の達成は「おおむね良好である」または「良好である」と評価を受けました。

令和元年度は、第3期中期計画の初年度にあたります。第3期中期目標・計画の達成に向け、引き続き皆様のご理解と積極的なご参画をお願い致します。

○平成30年度 評価結果の概要

全体評価

中期目標で掲げる8項目中（Ⅰ.地域貢献＜教育関連＞、Ⅰ.地域貢献＜研究関連＞、Ⅰ.地域貢献＜診療関連＞、Ⅱ.教育、Ⅲ.研究、Ⅳ.診療、Ⅴ.まちづくり、Ⅵ.法人運営）の全ての項目について、数値目標を含めて「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評定し、年度計画で定めた事業をおおむね実施していると判断した。

平成30年度の業務実績については、**中期目標・中期計画の達成に向けて全体として順調に進んだ**と認められる。

項目別評価

Ⅰ.地域貢献【教育関連】

年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇派遣要請元病院の人事・総務担当者との面談を実施し、実績データ（稼働状況、患者数、医師数等）収集や医師派遣の現状等に関する意見交換を行い、病院それぞれの実態やニーズの把握を行った。など

Ⅰ.地域貢献【研究関連】

年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇県・市町村の保健事業にかかる調査・データ分析を行うとともに、分析結果や研究成果をニュースレターで紹介し、学会や学会雑誌にも公表した。など

Ⅰ.地域貢献【診療関連】

年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇予約診療の促進に取り組んだことにより、予約実績が13,509件と昨年より957件増加し、紹介率93.6%、逆紹介率77.8%を達成した。など

Ⅱ.教育

年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇講座・学科目のあり方等に関する検討委員会で、将来像の実現及び大学全体の教育の総合力を高めるための教員配置等を含めた教育体制の見直しや検討を行った。など

Ⅲ.研究

年度評価：Ⅳ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）

注目される取組（評価の高い事項）

◇疾患の予兆や重症化、医薬品の効果・副作用についてリアルタイムで予測できる技術を開発するため、AI・バイオ・工学を融合させた画期的な寄附講座「V-iClinix 講座」を設置した。など

課題

◇平成30年2月15日に県から示された、新キャンパスへの移転整備は「先行整備」「継続整備」の2段階とし、教養教育部門・看護学科を対象とする先行整備を令和6年度中に竣工する方針を踏まえ、新キャンパスの研究施設について施設整備基本計画に具体案を作成するに至らなかった。

Ⅳ．診療

年度評価：Ⅳ(中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる)

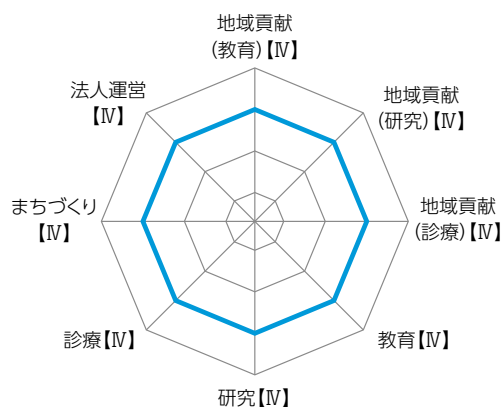
注目される取組(評価の高い事項)

- ◇がん診療について、県内医療従事者を対象とした各種研修会の開催による人材の育成や多職種連携による奈良県化学療法チーム研修会の開催、カンサーボードの増設によるチーム医療体制の充実を図った。など

課題

- ◇現キャンパスにおける患者用駐車場については、現駐車場より多くの車を停めることのできる計画案を作成し検討を行ったが、耐震問題の対応のため、検討途上となっている。

平成30年度 評価結果



Ⅴ．まちづくり

年度評価：Ⅳ(中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる)

注目される取組(評価の高い事項)

- ◇MBT 構想をより現実のものとするため、奈良医大発となる第1号大学発ベンチャー企業を認定し、見守りシステム等の開発を目指した。など

課題

- ◇平成30年2月15日に県から示された、新キャンパスへの移転整備は「先行整備」「継続整備」の2段階とし、教養教育部門・看護学科を対象とする先行整備を令和6年度中に竣工する方針を踏まえ、研究部門、患者用駐車場等について、施設整備基本計画に具体案を作成するに至らなかった。

Ⅵ．法人運営

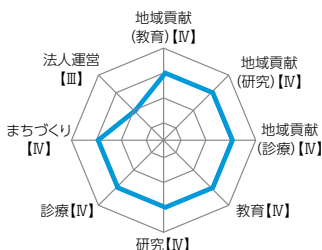
年度評価：Ⅳ(中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる)

注目される取組(評価の高い事項)

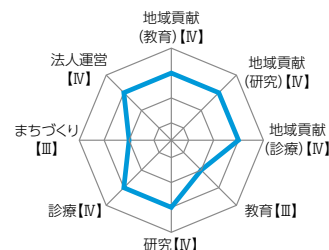
- ◇附属病院の適正な病床稼働率の確保、平均在院日数の適正化及び施設基準の取得・維持等により、診療収入の確保を図るとともに、医薬・診療材料費の適正化を図るため、医薬材料対策プロジェクトによる価格交渉を行うなど、経営改善に努めた。など

(参考)過去の年度評価

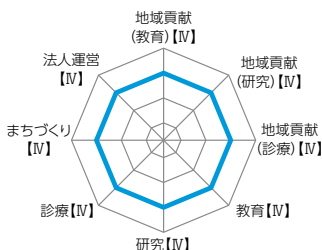
平成25年度 評価結果



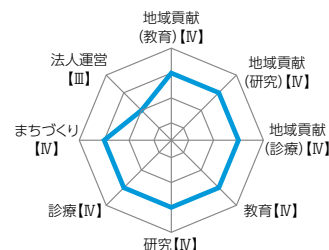
平成26年度 評価結果



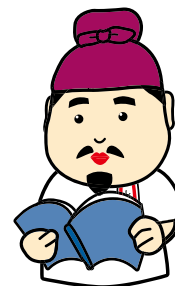
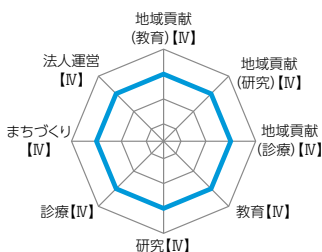
平成27年度 評価結果



平成28年度 評価結果



平成29年度 評価結果



第2期中期目標期間 評価結果の概要

全体評価

中期目標で掲げる8項目中（Ⅰ.地域貢献＜教育関連＞、Ⅰ.地域貢献＜研究関連＞、Ⅰ.地域貢献＜診療関連＞、Ⅱ.教育、Ⅲ.研究、Ⅳ.診療、Ⅴ.まちづくり、Ⅵ.法人運営）の全ての項目について、数値目標を含めて「**中期目標の達成状況がおおむね良好である**」または「**中期目標の達成状況が良好である**」と評定し、中期計画で定めた事業をおおむね実施していると判断した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人奈良県立医科大学の第2期中期目標の達成状況については、**全体として良好である**と認められる。

【注記】新キャンパス移転及び移転後の現キャンパスにおける附属病院施設の整備に関する中期目標（新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す、教育・研究部門移転後の病院の整備計画を策定する）は県の財政支援を前提としたものであり、その達成に向けての取組については、キャンパス整備の前提として県とともに行った「奈良県立医科大学の将来像」（理念）の検討が長期に渡ったこと、平成29年度に県から、新キャンパスへの移転整備は「先行整備」「継続整備」の2段階とし、教養教育部門・看護学科を対象とする先行整備を令和6年度中に竣工する方針を示されたことなどの目標策定時からの環境変化を踏まえて評価を行った。

項目別評価

Ⅰ.地域貢献【教育関連】

評価：Ⅳ（中期目標の達成状況が良好である）

注目される取組（評価の高い事項）

◇県内の医療機関等からの医師派遣要請に対応し、医療需給の分析を踏まえ、医師適正派遣調整会議において配置の透明性や客観性を確保するための検討を行い、的確な医師派遣を行うなど県立医大医師派遣センターの設置及び運営を行った。など

Ⅰ.地域貢献【研究関連】

評価：Ⅳ（中期目標の達成状況が良好である）

注目される取組（評価の高い事項）

◇大和漢方医学薬学センター、スポーツ医学研究センターの設置をはじめ、産学連携推進のため、民間企業と血栓止血医薬生物学共同研究講座などの共同研究講座の設置や、「V-iclinix 講座」などの寄附講座の設置など、研究面での地域貢献及び社会貢献に取り組んだ。など

Ⅰ.地域貢献【診療関連】

評価：Ⅳ（中期目標の達成状況が良好である）

注目される取組（評価の高い事項）

◇予約診療の推進及び地域医療機関との連携を通じ、紹介率及び逆紹介率について、目標を大きく上回る実績を確保した。また、地域連携パスの運用促進を図り、目標を大きく上回る運用件数を確保した。など

Ⅱ.教育

評価：Ⅲ（中期目標の達成状況がおおむね良好である）

注目される取組（評価の高い事項）

◇法人と奈良県が共同で設置する「奈良医大の将来像策定会議」で議論し、「良き医療人の育成」を目的とした新カリキュラム「教育改革2015」を策定、導入することに加え、外部評価及び医学教育モデル・コア・カリキュラムを踏まえ、毎年度カリキュラムのブラッシュアップを実施した。など

課題

◇キャンパス整備の前提として県とともに行った「奈良県立医科大学の将来像」（理念）の検討が長期に渡ったこと、平成29年度に県から、新キャンパスへの移転整備は「先行整備」「継続整備」の2段階とし、教養教育部門・看護学科を対象とする先行整備を令和6年度中に竣工する方針を示されたことなどにより、平成33年度（令和3年度）中の新キャンパスオープンという計画は、「先行整備」として規模が縮小となったうえ、その竣工が令和6年度中となったため、目標達成に至らなかった。

Ⅲ.研究

評価：Ⅳ（中期目標の達成状況が良好である）

注目される取組（評価の高い事項）

◇将来像及び重点研究2016推進計画の議論の中で研究に対する取組が進みPubMed英文論文数も大幅に増加し、目標の1,400件に対し、2,398件を達成した。など

IV. 診療

評価：Ⅳ（中期目標の達成状況が良好である）

注目される取組（評価の高い事項）

◇各年度の臨床指標（クリニカルインディケータ）の設置と分析並びに公表等について審議する医療の質評価委員会の設置・運営を行い、臨床指標の設定及びホームページへの公表を行った。また、国立大学附属病院とのベンチマークを行い、重点改善項目を設定して医療安全・質評価・教育対策プロジェクトを中心に改善に取り組んだ。など

V. まちづくり

評価：Ⅳ（中期目標の達成状況が良好である）

注目される取組（評価の高い事項）

◇健康長寿コホート研究の成果発表会では、アンケート結果においても県民から興味深いという感想を多く得ることができ、県民の健康に関する意識向上が図られ、健康づくり等に貢献した。など

課題

◇キャンパス整備の前提として県とともに行った「奈良県立医科大学の将来像」（理念）の検討が長期に渡ったこと、平成 29 年度に県から、新キャンパスへの移転整備は「先行整備」「継続整備」の 2 段階とし、教養教育部門・看護学科を対象とする先行整備を令和 6 年度中に竣工する方針を示されたことなどによる新キャンパス移転の進捗の遅れから、臨床医学研究棟の新築ではなく E 棟移転後の A 棟の空きスペースを活用することに方針変換し、スケジュールが変更され計画に遅れが生じたため、目標達成に至らなかった。

VI. 法人運営

評価：Ⅲ（中期目標の達成状況がおおむね良好である）

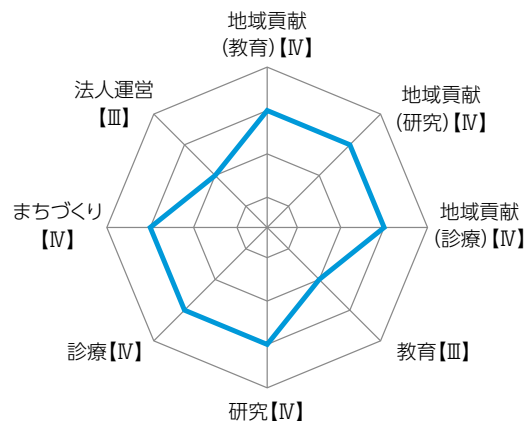
注目される取組（評価の高い事項）

◇同窓会や卒業生との連携・交流を強化し、母校愛の育成と寄附協力意識の向上を図ったことにより、企業等から法人への寄附件数の実績は、目標件数 1,000 件に対して 826 件であったが、教育・研究環境の整備充実のための「未来への飛躍基金」への寄附件数の実績は、目標件数である 677 件を上回る 1,503 件となった。など

課題

◇病院収入は、第 2 期中期目標期間の開始当初に比して約 111.9 億円増加したが、消費税率の増加に伴う診療報酬改定時の補填不足（約 7.5 億円）及び退職給付引当金の計算方法変更（約 13.6 億円）などに伴う経費の増加により、第 2 期を通じた収支が赤字となり、繰越欠損金の解消には至らなかった。

第2期中期目標期間評価



奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会 委員名簿

氏名	役職等
今中 雄一	国立大学法人京都大学大学院医学研究科 医療経済学分野 教授
◎垣内 喜代三	国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 理事・副学長
竹田 幸博	一般社団法人 日本呼吸器学会 事務局長
任 和子	国立大学法人京都大学大学院医学研究科 生活習慣病看護学分野 教授
堀 正二	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 名誉総長

(五十音順 敬称略 ◎は委員長)

奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化に向けた研究者交流会を開催しました

本学と、奈良先端科学技術大学院大学とは平成21年3月から相互協力に関する包括協定を締結しています。

昨年6月より、両校の連携を図るために設置した「連携活性化委員会」での審議をもとに、共同研究に発展するよう、交流セミナーや、双方の大学において研究者交流会を開催しています。

2019年1月の奈良先端大での開催に続き、2回目となる今回の研究者交流会は、本学において開催しました。業務の合間を縫って参加された先生もおられ、50名を超える先生方が興味を持たれ参加しました。

まず、臨床研究棟1階大会議室において、本学細井理事長・学長の挨拶に続き、奈良先端大の横矢学長の挨拶から始まり、その後、臨床研修センター1階カンファレンス室へと移動し、研究者交流会がスタートしました。



細井理事長・学長



奈良先端大 横矢学長



奈良県立医科大学と奈良先端科学技術大学院大学の参加者

グループディスカッションは4つのグループに分かれて、第1部と第2部でメンバーを入れ替える2部制で行いました。各グループでは研究内容に関する質問や共同研究の可能性に関する質問が多く取り交わされ、第1部と第2部ともに白熱し、持ち時間を超過するほどの議論が行われました。合間の休憩中にも、各研究者は時間を惜しむように議論を行っていました。

車谷医学部長からは「今回の交流会は、互いに研究シーズを出し合い、共同研究をすすめる相手を見つけるためのもの。今日のこの機会を大切に、細く長く継続していく中で素晴らしい共同研究を作っていってほしい。」と今後の期待をいただきました。

また、この交流会を経て共同研究活動をさらに加速させるため、今年度、両大学で「協定大学共同研究助成事業」を制定し、優れた共同研究の研究者に対して助成することも発表しました。

その後に行われた意見交換会でもグループディスカッションから続けてさらに両学の研究者同士で活発に議論が盛り上がりました。

また、研究者自身が自身の研究をアピールするためポスターを掲示し、研究内容についてポスターセッションも行いました。

前回、今回と交流会に参加され、共同研究に発展しているのがうかがわれ、両大学の連携がまた一歩前進していくのを感じられた1日でした。

今後も、両大学の連携活性化に向けた企画を行いますので、ぜひご参加ください。



車谷医学部長



奈良先端大 箱嶋理事



免疫学 伊藤教授



グループディスカッション



意見交換会

From Nara to the World : A new generation of Nara Medical University students prepare to represent Japan

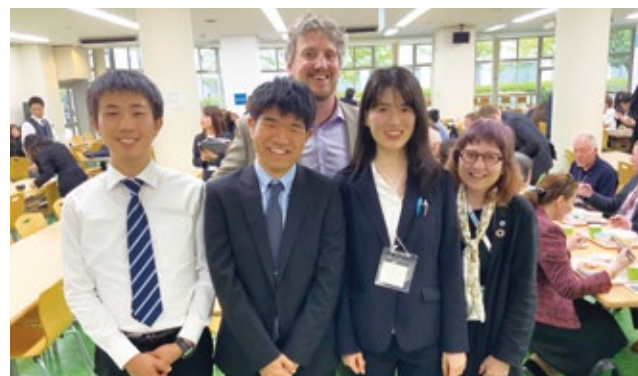
本年度の6月に初めて、本学の学生、医学科2年生の梶建也、竹下沙希、医学科1年生の樋口雄飛の3人が、臨床英語講座を通して、本学を代表とし Model United Nations (模擬国連) に参加しました。

模擬国連とは、参加者が世界各国の代表として国際問題の解決のために英語で議論を重ね、国連会議を模擬する活動です。事前に担当となった国について情報収集を行い、会議においては自国の利益、他国との関係性を考慮に入れて交渉を進める必要があります。今回は“Promoting Jobs and Protecting People”というテーマで会議を行いました。本学は、エスワティニ王国 (旧スワジランド王国) を担当しました。

模擬国連当日は、全国各地と海外から集まった学生たちと活発な議論が交わされました。英語力のみならず、相手の話に耳を傾け共感する能力や双方が合意できる案を提示する交渉力などの大切さを実感する良い学びの機会となりました。

その活躍により、今年度11月にドイツで行われる模擬国連世界大会 (NMUN) に上記3名は公式な招待を受けました。

今回のJUEMUNへの参加は、細井学長の本学学生に国際化の機会を増やす活動の一つであり、今後更なる医学科、看護学科の学生の参加を期待します。



臨床英語講座と救急医学講座の共同研修

英語での研修を通して奈良の国際化を目指す

臨床英語講座では、平成28年度より、毎年冬期休暇を利用して医学科・看護学科学生の希望者を対象に、ニュージーランドにて救急救命士による研修プログラムを行っています。参加者は傷病者に対する初期対応を実践を交えて学んでいます。今年度は、上記研修に加え、救急医学講座 福島教授協力のもと、ニュージーランドから救命救急士を本学に招き奈良県で初めて同記内容の講習を行いました。本研修の目的は、自然災害発生時に日本及び海外にて、日本人医師・看護師が外国人患者を治療し、同時に海外の医療チームと働くことを可能にすることです。

6月29日、30日に行われたファースト・レスポnder・トレーニング (以下、上級編) の研修では、過去にニュージーランドで研修を受けた13名が参加し、現地での研修の振り返りの後、さらに専門的な内容を、スキルラボ協力のもとシュミレーターを用いて学びました。また、実際にキャンパス内で様々なケースを想定した実地訓練を行いました。

7月6日、7日に行われたファーストエイド・トレーニング (以下、初級編) の研修では、奈良市青少年野外活動センター (奈良市阪原町) で1泊2日の研修に医学科1年生30名が参加しました。参加者は少人数のグループに分かれ、自分達で事故や災害時のシナリオを想定し、AEDの使い方を始め二次救命処置を含めた初期対応を2日間に渡り学びました。上級編を受講した8名は、各グループの補助に当たり、素晴らしい指導力を発揮しました。研修日初日には、奈良県荒井正吾知事より、知事メッセージが届き、ニュージーランドから来ていただいた救命救急士の方への感謝の意と学生への激励のお言葉を拝受しました。

6月、7月の研修を終え、12月末に催行される本年度のニュージーランド研修には、過去最高人数の学生が参加を予定しています。



来学期間中の7月1日には、学長表敬訪問が行われ、今回の研修及び今後のニュージーランド研修の展望、自然災害時の国際協力の必要性、また将来的な研修像などについて細井学長と救命救急士と話し合いが行われました。

子宮内膜症の癌化機序の解明



産婦人科学教室 小林 浩

1. 子宮内膜症の癌化機序解明：微小環境の変化と発癌

子宮内膜症は、生殖年齢女性の約10%に発症する疾患であり、月経困難症・慢性骨盤痛、不妊症などQOLを損なう疾患であるとともに癌化が問題となっている。日本人女性11万人を21年間追跡した我々の疫学研究により、卵巣子宮内膜症性嚢胞（チョコレート嚢胞）の0.72%が癌化することを報告した。子宮内膜症は月経のたびに出血し溶血を起こし遊離したヘモグロビンは自動酸化によりメトヘモグロビンに変換される。一方、ヘモグロビンの自由鉄はフェントン反応を介して活性酸素種を発生し、これらによる酸化ストレスの結果、子宮内膜症細胞にDNA障害を起こし発癌に至ると考えている。しかし、実際には卵巣癌の嚢胞液中のヘモグロビンや鉄濃度は子宮内膜症より極めて少ないことが判明し、子宮内膜症は酸化ストレス過剰状態であるのに対し、卵巣癌では抗酸化の状態であることも分かってきた。このような酸化抗酸化環境の変化をもたらす因子として、HO-1に着目した。ヘム鉄を分解する酵素であるHO-1とマクロファージの分極について検討をおこなった結果、子宮内膜症の癌化症例では酸化抗酸化の微小環境が変化し、それによりマクロファージの集積や極性の変化が生じ、HO-1発現M2型マクロファージの減少が、子宮内膜症の癌化に関与している可能性が示唆された。現在極性の変化を誘導する因子に関して検討している。

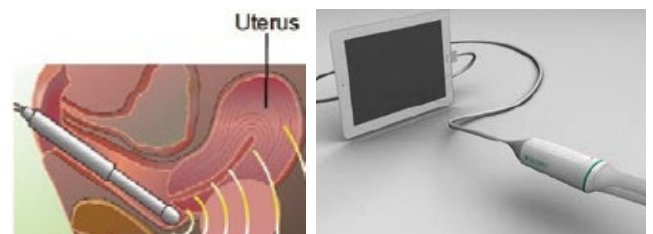
2. 子宮内膜症の癌化機序解明：発癌シグナル伝達の解明

子宮内膜症から発癌する卵巣癌には明細胞癌と類内膜癌がある。類内膜癌は抗癌剤感受性であるのに対して、明細胞癌は耐性を示し治療に難渋し予後不良である。我々は明細胞癌の治療戦略を考えるため、低メチル化により過剰発現している転写因子Hepatocyte nuclear factor-1beta (HNF-1 β)に着目した。その下流遺伝子を網羅的に探索した結果、HNF-1 β -USP28-Claspin-Chk1シグナル系を同定した。つまり、卵巣明細胞癌は、転写因子HNF-1 β が、USP28の過剰発現を介してClaspinのユビキチン分解を抑制することでChk1のリン酸化を持続し、細胞周期のG2/M期チェックポイントを停止させることが分かった。その結果、細胞周期停止の間にヘモグロビンや鉄によるDNA障害を修復し、アポトーシスを回避することで抗癌剤耐性を得ていると考えられた。本研究成果を

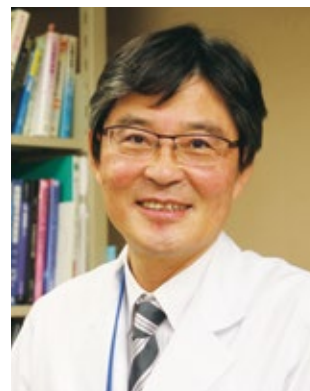
治療に応用することを考えると、ClaspinやChk1はすべての正常細胞にも存在するため、これらの阻害薬を使用すると副作用が強くなることが予想される。しかし、明細胞癌はHNF-1 β -USP28系に特異的に依存するため、USP28などの阻害薬が治療に結びつく可能性が示唆された。

3. 子宮内膜症の癌化を早期に発見する 経腔光学プローブの開発

子宮内膜症の一部は悪性化することで卵巣癌になることが知られている。超音波診断装置や磁気共鳴画像 (MRI) によって嚢胞の癌化の可能性は判断されるが、実際に癌化しているか否かは組織の病理学的検査によるため、将来癌化する可能性を考慮して摘出手術を受ける患者も多い。そこで子宮内膜症の悪性化度を診断する光学的センサーを開発し、組織摘出が不要で経過観察にも使用可能な、高精度の診断方法を実用化するプロジェクトを立ち上げた。その原理は、チョコレート嚢胞では出血が蓄積するため嚢胞内のヘム鉄濃度が高くなり、癌化に伴い低下することを発見したことによる。嚢胞を摘出することなく、超音波診断装置に内蔵した近赤外光を照射しその反射光を測定することでヘム鉄濃度を測定することが可能となった。臨床応用のために、チョコレート嚢胞液中のヘム鉄を観測可能なスペクトル解析技術を開発し、光学的センサーの安全性を確認した。次に光学的センサーを実装した経腔エコープローブを開発し、臨床試験に適するためのプローブ試作品の設計と製作を繰り返して、診断のための画像処理などのプログラム開発を行ってきた。以下に経腔光学プローブを示す。



小児科学領域の研究



小児科学 教授 嶋 緑倫

小児科教室では一貫して止血と血栓に関する研究を継続しています。特に、血友病の病態や新規治療に関する研究、さらに、包括的凝固機能の評価に関する研究が中心ですが、最近では出血性疾患のみならず、血栓性疾患、悪性腫瘍、敗血症、心疾患/川崎病や腎疾患など様々な小児疾患に見られる凝固障害についても研究しています。

1. 第VIII因子の構造機能解析と血友病Aの病態解明の軌跡

第VIII因子(FVIII)は凝固内因系における活性型第IX因子(FIXa)が第X因子(FX)を活性化する活性型第X因子(FXa)生成反応を促進する補因子として機能しています。「補因子」というと、脇役みたいなイメージですが、FVIIIが存在すると、FXa反応の速度が約20万倍増幅されることから凝固反応系ではきわめて重要な因子といえます。FVIIIが機能するためには、トロンビンやFXaにより活性化される必要がありますし、また、活性型プロテインC(APC)/プロテインS(PS)により抑制されて、FVIII不活性化を介して凝固が制御されています。また、FVIIIの安定化にはvon Willebrand因子と結合して複合体を形成する必要があります。このように、FVIIIは様々な凝固因子やリガンドと結合して機能を発揮している多機能蛋白で簡単には全貌を明らかにしてくれません。教室では、この複雑なFVIIIの構造や機能を解明するために色々なアプローチで研究を行っています。具体的には、抗第VIII因子に対するモノクローナル抗体を作製してエピトープ解析を行うこと、他の凝固因子との結合実験を行うこと、様々なアミノ酸変異を導入したFVIIIを発現させて必須アミノ酸部位を同定することなどです。また、様々な異常FVIIIを有する血友病A患者の遺伝子変異に基づく機能解析も行っています。これらのアプローチにより、FVIIIとVWF、リン脂質、トロンビン、FXa、FIXa、APCなどの結合部位を次々に明らかにすることができました。

2. 新規凝固反応制御機構の発見

古典的な血液凝固反応は内因系と外因系が進行して、共通系である第X因子が活性化されトロンビンが生成されてフィブリノゲンがフィブリンに変換されるという考えです。しかしながら、近年は、出血部位に発現した組織因子(TF)に活性型第VII因子(FVIIa)が第X因子活性化反応を介して微量なトロンビンがまず生成され、それが血小板やFVIII、FVを活性化されることにより爆発的なトロンビンが生成されるという細胞基盤型凝固反応説が主流になっています。教室では、一連の研究成果からこれでも説明できないことがわかりました。例えば、凝固反応のごく初期にはFVIIa/TFがFVIIIを活性化すること、線溶系のプラスミンが、FVIIIを開裂不活化すること、第V因子は必須の凝固因子ですが、APCによるFVIII不活化を促進することで抗凝固因子としても機能しているこ

などを発見しました。

このように凝固反応というのはまだまだ十分に分かっていないのが現実で、解明すべき点が多々あると実感しています。

3. 新規血友病治療剤の開発

血友病Aの治療はHIVやC型肝炎の感染という大きな負の歴史から、モノクローナル抗体精製剤や遺伝子組み換え型FVIII製剤の開発をきっかけに、治療剤の安全性や有効性が向上し飛躍的に進歩しました。日本を含め先進諸国では出血毎に投与するオンデマンド止血治療から定期的に製剤を投与して出血を予防する定期補充療法が中心的な治療になっています。しかしながら、解決すべきいくつかの課題が残っています。第一に、FVIII製剤の半減期は10-15時間と短く、出血を予防するために、週に3回あるいは隔日投与が必要です。さらに、重症型の患者さんの約25%に抗FVIII同種抗体(インヒビター)が出現します。インヒビターはFVIIIを中和するために製剤の有効性は消失～激減します。これらの課題を解決するために、中外製薬と活性型第VIII因子(FVIIIa)を代替する抗IXa/Xバイスペシフィック抗体を2003年から共同開発をしました。健常成人での第1相臨床試験で安全性や薬力学的作用を確認後、当教室が中心に血友病A患者に対する出血予防効果も検討しました。週1回の皮下投与でインヒビターの有無にかかわらず出血回数が激減～消失したことを発表し、その後、国際第3相臨床試験が実施されました。その結果、インヒビター保有血友病A者や非保有患者いずれも週1回のみならず2週～4週毎の皮下投与で出血が激減することがわかりました。すでに、本製剤(emicizumab)は世界50か国以上で承認され、血友病Aの治療のパラダイムシフトをもたらしています。

4. 血液凝固機能解析に関する研究

従来の凝固機能は凝固時間や各凝固因子レベルで評価されてきましたが、包括的な凝固機能を評価することは困難でした。教室では世界に先駆けて凝固時間の測定過程の透過度をリアルタイムにモニタリングして凝固波形解析(Clott waveform analysis;CWA)を開発し、血友病や出血性疾患の凝固機能評価を行うシステムを確立しました。さらに、トロンビン生成試験やトロンボエラストメトリーなどを用いて包括的凝固機能を評価して、様々な凝固障害の診断と治療に応用する研究を実施してきました。最近、凝固線溶の不均衡を評価するトロンビン/プラスミン生成試験も開発し、新たな凝固機能モニタリング法として期待しています。奈良医大の重点横断研究としてDICの凝固線溶機能を解析し、凝固線溶不均衡からDICを分類することに成功しました。さらに、血液凝固異常を伴う敗血症などの重症感染症、川崎病や各種腎疾患の凝固病態についても検索しています。

MBT研究所だより (第14報)

1. 公的資金獲得

MBT コンソーシアム会員の凸版印刷株式会社が代表研究者となり、本学脳神経内科学杉江教授、形岡准教授などが連携して国立研究開発法人情報通信研究機構の委託研究に、「LPWAと3次元センシングを活用した病院・介護現場における負担の軽減」の課題で応募しておりましたが、このたび採択されました。

本研究は、3次元センシングにより患者の姿勢推定・荷重検知を行い、褥瘡との相関の論理的な推定をすることを目的としております。

2. MBT 会員会議

10月4日、本学大講堂で、MBT コンソーシアム会員会議が開催されました。会議では、MBTの活動趣旨に沿って社会貢献が期待される商品として、昭和西川(株)の「～耳石に優しい～睡眠頭位調節マットレス」にMBTロゴマーク第1号の使用許諾書が授与されました。また、細井理事長からは、活動4年目に入って加速的に国内外に広がっているMBTの活動状況紹介がなされるとともに、各部会リーダーからの部会活動の紹介や会員企業の企業紹介が行われました。当日は125名の会員や本学教職員が参加しました。



MBTロゴマーク使用許諾書授与



細井理事長開会挨拶と講演

3. MBTの海外展開

(1) MBT 研究所とマレーシア・プトラ大学との連携基本合意書締結

MBT 研究所とマレーシア・プトラ大学 (UPM) は、現地でのMBT 構想の積極的展開を目指し、提携することになりました。UPM は首都クアラルンプールの南部郊外にあり、国内外から高い評価を受けております。提携を進めるにあたり、細井理事長、梅田研究教授が7月17日にUPM を訪問し、基本合意書の調印式に参加しました。調印式では、130名を超える参加者が集まり、細井理事長によるMBT 活動紹介、梅田研究教授による活動紹介、パネルディスカッションなどが行われました。



マレーシア・プトラ大学との調印式

(2) アメリカ合衆国ミネソタ州との連携

9月10日、アメリカ合衆国ミネソタ州Tim Walz 知事、同州 Destination Medical Center 経済局 Patrick Seeb 局長と細井理事長が面談し、ミネソタ州における企業立地やMBT 構想について話し合いました。



中央：Tim Waltz 知事、右側：Patrick Seeb 局長

4. MBTの広報

(1) APPS JAPAN (アプリジャパン) 出展

6月12日～14日、幕張メッセ国際展示場で開催されたインターネット関連のデバイスやアプリの展示を行う APPS Japan にけいはんなりサーチコンプレックスと奈良医大は共同して出展しました。APPS Japan には、15万5801人の来場者がありました。

(2) 産学連携学会第17回大会

産学連携学会第17回大会が6月20日、21日に奈良県文化会館で開催されました。6月21日午後にはオーガナイズドセッション「MBT (医学を基礎とするまちづくり)」が開催され、細川研究教授がオーガナイザーを務め、奈良医大とMBT コンソーシアム会員企業から6人の発表者がMBTの活動内容や成果を発表しました。

(3) 「Medicine-Based Town」商標登録

特許庁へ文字商標登録出願をしていた「Medicine-Based Town」が7月12日付で商標登録されました。平成30年12月21日付で商標登録になった「MBT コンソーシアム」と合わせてMBT 関連2件目の商標登録となりました。

(4) 奈良県防災総合訓練

8月31日、桜井市芝運動公園一帯で奈良県防災総合訓練が実施され、MBT 研究所、MBT コンソーシアム会員企業6社、奈良先端科学技術大学院大学は連携して機器展示と災害時を想定した通信デモを行いました。展示ブースには奈良県の荒井知事、村井副知事らが訪問され、通信デモのTV会議に参加されました。



TV会議に参加する荒井知事

事務にも役立つ！インパクトファクターの調べ方

インパクトファクターを調べたことがありますか？よく聞けどイマイチわからないという方も多いのではないのでしょうか。今回は、研究者だけでなく事務や秘書さんまで、業績をまとめる人なら誰でも知りたいインパクトファクターの調べ方について解説します。

<インパクトファクターとは>

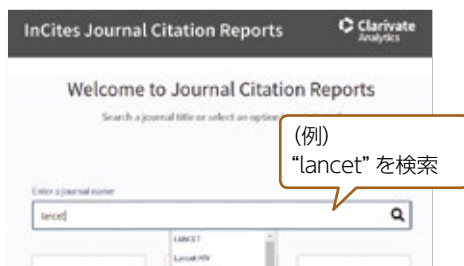
Clarivate Analytics 社が提供している学術雑誌の評価指標のことで、Web of Science という学術情報データベースに収録された雑誌の文献の引用データをもとに編集されています。よく「雑誌の影響度」などと表されます。もう少し詳しく説明すると、特定の期間内に特定の学術雑誌に掲載された論文がどれくらい引用されたかを平均値で示す尺度のことで、ある雑誌の対象年の前2年間に掲載された論文が対象年に引用された回数を計算しています。例えば、2018年のLancetのインパクトファクターは(2016～2017年にLancetに掲載された論文が2018年に引用された回数) ÷ (2016～2017年のLancet掲載論文数) となります。例年6月に更新されます。よく論文の指標と混同してしまいがちですが、**インパクトファクターは雑誌単位の指標であり、個々の論文の指標ではありません。**

<アクセス方法>

Journal Citation Reports (以下、JCR) というサイトからご覧いただけます。Internet Explorer では正常に開かないことがありますので、IE以外のブラウザ(Google ChromeやFirefoxなど)をご利用ください。また、**ポップアップブロックは解除してください。**

【図書館ホーム > オンラインリソース > 研究・学習支援ツール > Journal Citation Reports】

トップ画面中央部の検索ボックス「Enter a journal name」に雑誌名を入力します。入力途中で前方一致する雑誌名の候補が出てきますので、見たい雑誌が出てきたらそちらをクリックします。(ISSN[雑誌のID番号]でも検索可です。その際はハイフンをお忘れなく！)



なお、略誌名では出てこない場合があります。例えば、「JAMA」と入力すると「JAMA-JOURNAL OF THE AMERICAN MEDICAL ASSOCIATION」と出てきますが、「NEJM」と入力しても「No results found」となってしまいます。JCRでは独自の略誌名を採用しており、中にはPubMedの略誌名と異なるものもあります。また、「the」や「of」が抜けているだけでも出てこないため、検索しても出てこないような場合は正式名を確認してください。

また、算出には丸3年間のデータが必要となるため、創刊から3年以内の雑誌のインパクトファクターはありません。誌名やISSNが変更された場合は新しい雑誌として再評価されます。さらに、対象となる雑誌はWeb of Scienceの収録誌に限られるため、出版されている全ての雑誌にインパクトファクターがあるわけではありません。

そのほかに、極端に自誌相互引用が多いなどの理由でその年のインパクトファクターを取り消されるものもあります。不正にインパクトファクターを押し

上げてしまうからです。JCRのHelpページで取り消された雑誌のリストをご確認いただけます。

<検索結果 (Journal Profile) の見方>

・画面上部

雑誌の情報として、ISSN、eISSN(雑誌電子版のID番号)、出版社名、発行国、雑誌の正式名、(JCR独自の)略誌名などが書かれています。カテゴリにカーソルを合わせると概要説明が表示されます。また、雑誌上部の下のタブがいくつかあり、「Current Year」のほか、前年のデータや今までの全データを表示させることもできます。



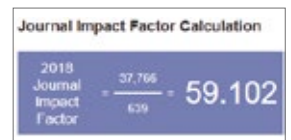
・Journal Impact Factor Trend

インパクトファクターを見るならここです。雑誌情報のすぐ下で最新のインパクトファクターを確認できます。例に挙げたLancetの2018年インパクトファクターは59.102です。出力したいときは、雑誌情報下部やインパクトファクター近くに表示される「Printable Version」をクリックしてください。印刷用にレイアウトされたデータが表示されます。



・Journal Impact Factor Calculation

インパクトファクターを算出した計算式が出ています。Lancetの場合、2018年に引用された回数37,766(2016年掲載論文引用回数23,003回 + 2017年掲載論文引用回数14,763回)を2016～2017年の掲載論文総数639件で割った値がインパクトファクター値です。



・Citation distribution

論文タイプ別の被引用論文数の分布グラフです。Article論文、Review論文の被引用数の中央値など確認できます。



・Journal Impact Factor contributing items

引用数の多い文献ランキングや引用された回数の多い雑誌ランキングが見れます。



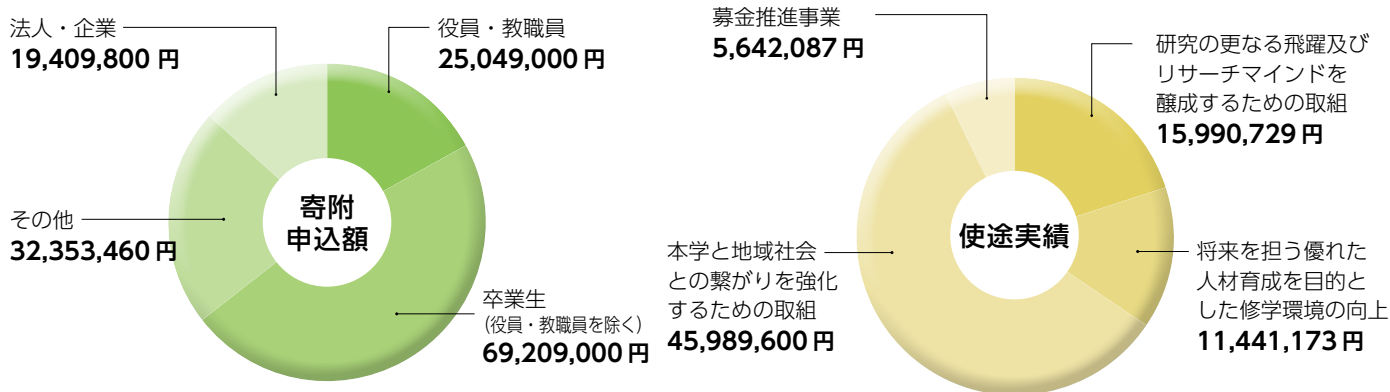
インパクトファクターは前2年分のデータのみで算出しますので、引用に時間がかかるような分野の研究には参考にしにくい部分があり、異分野間の比較には適していません。また、Web of Science収録誌に限定されていることや、雑誌単位の指標であることなどから、インパクトファクターのみでは個々の研究成果の評価はできません。あくまで学術雑誌の指標の一つということでご活用いただければ幸いです。

未来への飛躍基金だより

2018年度「未来への飛躍」基金 実績報告

平素より「未来への飛躍」基金に対しご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

皆様のご協力のおかげで、2019年で5年目となりました「未来への飛躍」基金も総額約6.6億円のご寄附申込をいただいております。2018年度は、623件、146,021,260円のご寄附申込をいただいております。いただきましたご寄附は学生の国内外への研修や臨床研究中核病院承認取得への取組等に有効に活用させていただきましましたので、ご報告いたします。



今年度も5月に看護学生に対して実習用白衣やシューズ等を基金よりお渡しさせていただきました。奈良医大で学ぶ看護学生の皆さんに、看護学の基礎を学び未来に羽ばたいて欲しいという願いをこめてお渡しさせていただいております。また、9月に実施された健康長寿イベントへも助成させていただきました。参加いただいた方々が、楽しみながら、医療を身近に感じていただければと思っております。

2018年度使途実績内訳

	使途事業	事業概要	助成人数	支出額
研究の更なる飛躍及びリサーチマインドを醸成するための取組	大学院医学研究科博士課程入学者に対する奨学金	入学者の内希望者に対して大学院入学支援修学資金（入学金相当額）及び基礎医学等研究者確保修学資金（授業料相当額）を貸与 ※基礎医学系又は社会医学系を主科目として選択した者は返還を免除	12	6,175,800
	リサーチ・クラークシップへの助成	医学科2年生を対象とした国内及び海外の研究室での実習に対して宿泊費を助成	国内12 海外16	7,579,190
	コンソーシアム実習への助成	医学科1～6年生を対象とした早稲田大学で開講される連携講座受講への助成	6	270,000
	未来基礎医学への活動支援	リサーチ・クラークシップをはじめ、学生の研究支援を行う講座の活動費を助成	—	1,965,739
将来を担う優れた人材育成を目的とした修学環境の向上	医学科臨床実習への助成	医学科6年生を対象とした病院での臨床実習に対して宿泊費を助成	5	398,000
	看護学科臨床研修（国際看護論Ⅱ）への助成	看護学科4年生を対象とした海外研修に対して宿泊費を助成	8	140,720
	ADVANCED CLINICAL ENGLISH II（海外留学）への助成	医学科3～6年生、看護学科全学年を対象としたニュージーランドでの海外留学に対して交通費、宿泊費、実習費等を助成	8	2,183,907
	その他海外研修への助成	夏季休暇中の海外実習にかかる交通費及び宿泊費の助成	—	0
	臨床英語での教育活動への助成	海外への臨床実習・留学への教育活動費の助成	—	1,962,988
	クラブ活動への助成	防球フェンス購入、トレーニングルーム整備、クラブ棟ごみ収集コンテナ購入	—	2,190,240
	新入学生への応援支援	入学式後に医学科・看護学科の新入学生保護者に対し、本学の教育活動等に関するコミュニケーションを深め、新入学生を応援するための支援	—	2,329,150
看護学科学生への支援	看護学科学生へ実習用白衣及びシューズを授与	85	868,800	
国家試験対策への支援	国家試験合格率向上対策として医学科生及び看護学科生へ国家試験対策模試費用を支援	203	1,367,368	
本学と地域社会との繋がりを強化するための取組	健康長寿イベント事業への助成	本学と地域社会との繋がりを強化するための取組である健康長寿イベントへの助成	—	1,000,000
	臨床研究中核病院承認取得への取組に対する助成	臨床研究中核病院承認に向けた、トップクラスの医療提供と医療者の確保・育成を目指すための体制整備	—	44,989,600
	募金推進事業	印刷費・郵送費・広報費等	—	5,642,087
計				79,063,589

今後も引き続き教育・研究活動等への支援に取り組むとともに、2018年度から4年間は臨床研究中核病院承認取得に対する取組への支援も行うこととしているため、2019年度から2021年度の3カ年は毎年度156百万円、2022年度以降は毎年度70百万円を基金から拠出する予定です。更に、キャンパス移転に伴う施設等の整備にも1,000百万円を拠出する予定です。

2018年度末で、基金の現金残高は77百万円で、別に、公社債を350百万円（額面）保有していますが、今後も基金を活用した事業を円滑に進めるためには、基金を一層充実させる必要があります。

このようなことから、2018年度寄附146百万円から79百万円を教育・研究活動等に拠出させていただきましたが、残額を基金に組み入れさせていただいております。

退任の挨拶



感染症センター元教授（現 名誉教授） 三笠 桂一

令和元年6月末を持って感染症センター教授を退任することになりました。皆様方には大変お世話になりました。感染症センターは2003年に開設され、翌年に教授に就任しました。教授としては凡庸でしたが、おかげさまで人に恵まれ、奈良県とその周辺地域の感染症診療体制の構築と、質・量とも日本一の感染症内科を作る事ができました。

現在の心境を野球でたとえて言えば、「長いリーグ戦の最終試合、1-0で迎えた9回表の相手チームの攻撃は既に2アウト。あと一人を押さえればリーグ優勝が決定する。能力の限界を超えていたが、最後のバッターを三振で終わらせようと渾身の力を込めて投げたボールは痛烈にはじき返されセンター前に抜けようかという当たり。ハッとして振り返ってボールの行方を追うとそこには既にショートストップの姿が…そのファインプレーに助けられゲームセット」、球場に吹く風を胸いっぱい吸ったあと、空を見上げながらフーと一息つきながら安堵してマウンドをゆっくり降りるピッチャーの心境です。長い間本当にありがとうございました。奈良県立医科大学の益々の発展を祈念しております。

キャンパスニュース

Campus News

6.12
~14

APPSJAPAN (アプリジャパン) 2019にMBT研究所が出展しました

幕張メッセにおいて、情報システム開発関連企業等が一堂に集まる日本最大級の展示会「APPSJAPAN」が開催されました。展示会では、IoTシステムやAI技術等の紹介展示があり、本学が参画しているけいはんなリサーチコンプレックスとして、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学発ベンチャー企業、本学はMBT研究所が共同でブース出展をしました。MBT研究所ではウェアラブル端末によるバイタルデータ収集のIoT技術に関するMBT研究の紹介パネル、大学シーズ集等を展示しました。祭典には3日間で約15万人の方が来場され、多くの企業の方にMBT連携の可能性を提示することができました。今後も積極的に奈良医大とMBTの発信を行っていきますので応援よろしくお願いたします。



MBT 展示ブース

6.21
6.22

産学連携学会でMBTのオーガ ナイズドセッションを行いました

6月21、22日の両日において、奈良県文化会館で産学連携学会が開催されました。この学会は全国の大学等の産学連携部門の産学連携成功事例等を紹介するもので、当日は奈良県知事の開会の挨拶の後、産学連携にかかる学術講演等が行われました。

全国の産学連携に関わる多数の関係者が集まる中、2日目には産学連携活動の先進事例として、本学の取り組みを中心として「MBT（医学を基礎とするまちづくり）」のオーガナイズドセッションが組まれました。講演ではMBT研究所細川研究教授が司会を務め、奈良医大とMBTコンソーシアム会員企業からの6人の発表者が登壇、MBTの活動内容や成果を全国に発信しました。



MBTの成果報告の様子

6.28 MBT 技術交流会に向けて

MBT 研究所では、MBT の研究や取り組みの統合調整を図るため、定期的に会議を実施し毎回白熱した議論が交わされています。

今回は (株) タカトリ内にある MBT 研究所分室で行い、今年度実施する MBT 技術交流会について企画の内容等を綿密に詰めました。他には展示会での出展報告を行い、今後の研究成果の展示に向けての改善点なども議論しました。今後も趣向を凝らして MBT 研究活動を活発に行ってまいります。



真剣な討議

7.9 ケンタッキー大学からペニッパッカー先生、ストゥー先生が来学されました

アメリカのケンタッキー大学からペニッパッカー (Keith R Pennypacker) 先生とストゥー (Ann M Stowe) 先生が本学を訪れました。

ペニッパッカー先生は、脳梗塞患者の血栓回収療法時に得られる血栓や閉塞動脈に滞留した血液サンプルの分析により、脳梗塞の機能予後推定に有効なバイオマーカーの確立に取り組まれています。ストゥー先生は、脳梗塞時の神経損傷を防ぐ手法の開発を目的に研究を行われ、現在は脳梗塞後の神経機能回復を担う B 細胞に着目したプロジェクトに取り組まれています。

学長表敬訪問に続く脳神経内科学講座主催の特別講演では、ペニッパッカー先生が “Early detection of biomarkers in ischemic blood from patients with large vessel occlusion as predictors of stroke outcomes” と題して、ストゥー先生が “Identifying a novel B cell subset to support recovery from stroke” と題して、最新のデータを交えた研究内容を講演されました。



特別講演の様子



左より森准教授、杉江教授、ストゥー先生、ペニッパッカー先生、細井理事長・学長、松井助教

7.16 7.26 8.5 科学研究費助成事業応募申請に係る講習会を開催しました

科研費獲得支援事業の一環として、科学研究費助成事業応募申請に係る講習会を開催しました。ロバスト・ジャパン株式会社 中安豪氏、矢野覚士氏に、3回にわたり、科研費制度の現状と改正点や申請書作成のテクニックに関してご講義いただきました。講習会では、実践編として申請書作成ツールを用いたワーク等も行われ、研究者と講師との熱いやりとりがありました。

今年度も積極的な申請をよろしくお願いします。



講義の様子



中安氏

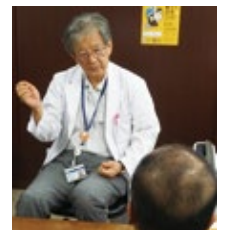


矢野氏

7.17 古家病院長に漢方外来のインタビューがありました

漢方外来について、日本最大級の医師向けサイト [m3.com] から古家病院長がインタビューを受けました。

古家病院長は漢方薬についての効能や副作用の説明、漢方に対する想い、漢方専門医の重要性や今後の附属病院の漢方外来についての展望などを熱く語りました。



取材を受ける古家病院長

本学では、漢方医学薬学に関する教育・研究・診療活動の充実等を図るため大和漢方医学薬学センターを設置しています。専任である三谷和男特任教授が医療者向けに漢方の勉強会等を実施しており漢方の普及に努めています。

この対談内容については、m3 (<https://www.m3.com>) に掲載していますので、ぜひご覧ください。

7.18 同志社女子大学と共催で院内コンサートを開催しました

本学と同志社女子大学とは、教育・研究・診療に関する相互支援などを目的として、学術交流に関する包括協定を締結しています。

この一環として、附属病院北玄関において同志社女子大学の学生による院内コンサートを開催しました。今回は「フルートアンサンブルサマーコンサート」と題し、フルート・ピアノによる演奏で、アンコールも出るなど入院患者の皆様にご覧いただきました。演奏する学生のみならず、観覧する患者様にとっても学びの成果を活かす貴重な体験の場となっています。



コンサートの様子

7.17

MBT 研究所とマレーシアプトラ大学 (UPM) が連携を開始

マレーシアは、人口約3,200万人、平均寿命は男性が72.7歳、女性が77.6歳、年齢中央値は28.6歳、高齢化率は6.6%であり、超高齢社会である日本に比べ対照的な国です。今後大きな成長が見込め、2020年には先進国への仲間入りを目指しています。情報科学技術の発展とともに国内のインフラ整備が進み、モバイル端末による通信およびインターネットの利用率は約9割と非常に高く、サイバーシティ（サイバージャヤ地区）の開発も進み、最先端を行く発展国として現在、世界中から注目を集めています。

プトラ大学は、最も都市化の進む首都クアラルンプール南部郊外にあり、設立は1931年農業大学から始まった大学です。1000haを超える広大な土地を活用し、現在は農学だけでなく、医学や工学などさまざまな分野の研究が行われ、国内外から高い評価を得ています。予てから、プトラ大学と本学MBT研究所梅田研究教授とは現地の医療・介護・健康問題について情報、意見交換を進めており、この度、プトラ大学のジェロントロジーセンター開所に合わせ、双方の連携をより強化、現地でのMBT構想の積極的展開を目指し、相互協力することになりました。

今回は、細井理事長・学長、梅田研究教授がプトラ大学を訪問しました。現地では、ジョージ・ワシントン大学のエヴァシュヴィッチ (Evashwic) 教授による特別講演や、パネルディスカッション等が開催され、130名を超える参加者がありました。

また、大学だけでなく、医療ツーリズムのための病院として世界的有名なプリンスコートメディカルセンターをはじめとする民間病院や国立病院などの視察も行い、マレーシアの医療・社会保障制度に関する理解も深めました。中でも、民間の総合病院であるサンウェイメディカルセンターは、敷地内にショッピングセンターやリゾート施設・ホテル、医学部を含む総合大学を保有しており、広大なセンター内を快適に移動するための、屋根付き歩道橋や巡回バスの専用車橋が整備されるなど、新たなまちとして機能していました。マレーシアで進む医療構想、これはMBTと共通する点が多く、既に現地から多くの問い合わせ、サービス導入の打診を受けるなど、MBTが世界に通用するということを改めて確信しました。

今後は、現地ニーズに合わせたMBTエコシステム（センサ、IoTと生かしたデータ管理システム）のローカライズ化を進める等、より一層大学間での連携を深め、MBTの世界進出を目指します。



プトラ大学と本学 MBT 研究所メンバー

7.25

米国 University of Houston から梅溪通久先生が来学されました

7月25日に、米国 University of Houston の梅溪通久先生が来学されました。梅溪先生は、コレステロール代謝産物による病態発症機序について先進的な研究を行われております。「コレステロール代謝産物による病態発症機序」と題して、コレステロール代謝産物と様々な病気の発症に関する、最新の研究内容を講演して頂きました。



7.30

職員向け賃貸住宅「マブライム」の竣工式が行われました

7月30日に本学労働組合が建設した賃貸住宅マブライムの竣工式が開催され、本学から来賓として細井理事長、車谷医学部長、古家附属病院長を含め8名が出席しました。この賃貸住宅は、職員の福利厚生充実と地域貢献を目的としており、月極駐車場34台と会議室1室、多目的フロア、住居28室を備えています。

冒頭で労働組合を代表して畑口委員長が、「マブライム」とは奄美大島の言葉で「自然の神々やご先祖様に守られ導かれ、幸や恵み、その恩恵をいただく人」という意味があり、マブライム入居者や入居される方以外の人々にも幸や恵みがあるように思いを込めて名付けたこと、また、会議室や多目的フロアを職員、学生、地域の方に活用していただくことで、今後の本学周辺のまちづくりに貢献できればとの思いを込め、現在の大学・附属病院と今井町のゲストハウス、大学移転場所の中心に建設したと挨拶されました。

続いて、挨拶に立った細井理事長は、大学移転やまちづくりを視野にいたした立地に、労働組合がこのように立派な多目的ホールを備えた賃貸マンションを建築され、職員が活用できることは奈良医大にとっても非常に有意義なことでと祝辞を述べられました。

竣工式終了後の内覧会では、居室、会議室だけではなく、災害時の断水、停電に対応するため設置された特殊な配管（給水タンク（120ℓ）として利用し、自転車の空気入れによる圧力で給水できる）や発電機なども披露されました。



8.1

ルール大学（ドイツ）から 2人の実習生が来学しました

本学とルール大学との学術交流協定に基づき、臨床実習生として、ニナ・カースニッツ（Nina Kahsnitz）さんとリン・マリー・エアメルト（Lynn Marie Ermert）さんが1ヶ月にわたり、本学に滞在しました。

ニナさんは、8月1日から8月30日まで、リンさんは、9月3日から10月2日まで、腫瘍センターにて実習に参加しました。「滞在中は、腫瘍センターのスタッフの協力により、医療の知識や技術はもちろんのこと、日本の歴史や文化についても学ぶことができ、実り多き実習になりました。また、今井町ゲストハウスでの滞在も快適なものでした。」とコメントをいただきました。

ルール大学からの実習生来学は、4年ぶりです。来年度の実習生の受け入れもすでに予定されており、今後も活発な交流を行っていきます。

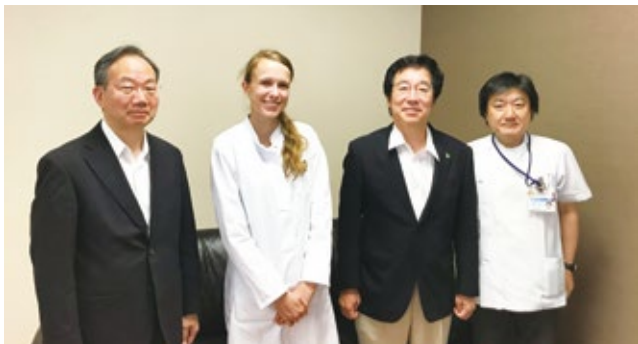
滞在の感想は、国際交流センターの学内ホームページ（VOICE）に掲載しています。



腫瘍センターにて（ニナさん）



実習中の様子（リンさん）



学長室にて（ニナさん）



学長室にて（リンさん）

8.1

第2回 奈良臨床漢方医学セミナー （産婦人科領域編）を開催しました

「更年期障害と漢方薬」をテーマに、江川 美保先生（京都大学医学部附属病院 産科婦人科・助教）にご講演いただきました。江川先生は産婦人科領域に限らず、「女性のこころとからだ」をトータルで診ておられます。漢方薬は予防医学的観点も含め、更年期のメンタル不調や不眠、冷え、倦怠感等々の病態に有効で、女性医療に不可欠なものとお考えです。

講演では、更年期医療の役割であるQOL（生活の質）の改善に対する漢方薬治療によるアプローチだけでなく、傾聴・対話・生活指導も含めた診療を行い、更年期を「変化のプロセス」と捉えていただくこと、そして、患者さん自身が「なりたい自分」になれるよう医療者として何が出来るか考え、徹底的に患者さんに寄り添うことの大切さにも触れられました。質疑応答の際には、次々と手が上がり、聴講者の方々が非常に熱心に興味深く耳を傾けておられた様子が伝わってくるセミナーとなりました。

今回は、精神科領域編を予定しています。



江川先生



（司会）産婦人科学講座
小林教授



セミナーの様子（臨床講義棟第1講義室）

学報編集委員会からのお知らせ

寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関すること、お知らせ等を掲載するため、これらに関連する記事を広く募集しております。

掲載を希望する記事がある場合は内線2206までお問い合わせください。

なお「学報」は年4回発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



8.6

「奈良医大メディカルサマープログラム」を開催しました

「良き医療人」の資質を持ち、将来、奈良県の地域医療に貢献する医師となり得る受験生を求め、初めての試みとして本年8月6日、奈良県立畝傍高等学校等から生徒24名を招き、『奈良医大メディカルサマープログラム～高校生のための医療体験プログラム～』を開催しました。

車谷医学部長の開会挨拶の後、総合医療学の西尾教授には災害医療やへき地医療についての講義をしていただき、地域医療学の赤井教授にはランチタイムを利用し、和やかな雰囲気の中で、本学カリキュラム説明や医師としてのキャリアプランについて話をさせていただきました。午後は、小グループに分かれて中央臨床検査部、中央手術部、集中治療部、中央内視鏡部、高度救命救急センター、IVRセンターを見学し、その後、シミュレーターを用いた採血や腹部エコー体験、そしてインストラクター役の研修医の先生方への質問の場も設けました。

参加された生徒からのアンケート結果は、「普段できないような貴重な体験ができた。」「医療を知るきっかけとなり医師になりたいと思った。」など満足度が高いものでした。

最後に、ご協力いただいた関係者の方々に深く感謝いたします。



西尾教授の講義風景



シミュレーター（静脈採血）体験風景

8.6
8.7

ふれあい看護体験を実施しました

令和元年8月6日7日に中学生以上の県民を対象に「ふれあい看護体験」が開催され、看護師を希望する高校生計38名の参加がありました。主催は、奈良県看護協会ナースセンターで、奈良県立医科大学附属病院は協力施設として参加しました。

体験後の「看護師との交流会」では、「将来看護師になりたい思いが強くなった」「看護師の仕事をテレビのドラマでしかわからなかったが本当の仕事の内容を見ることができてよかった」という意見が聞かれました。



担当の上田看護師と患者さんの洗髪後にドライヤーで髪をセットしています。患者さんにドライヤー使う際の注意点を教えてもらいました。(B病棟4階)

8.11
~18

令和元年度看護学科国際看護論Ⅱ チェンマイ海外研修報告

看護学科の国際看護論Ⅱ海外研修を8月11日～18日、本学の交流提携校であるタイのチェンマイ大学看護学部で実施しました。4名の学生が履修し、事前にタイの文化や医療制度を学習し参加しました。チェンマイ大学での研修は、異文化における看護と医療の実際をグローバルな視点で見学し考察することを目的とし実施しました。研修は、タイの「地域医療システム」「小児看護」「伝統医療」「HIV/AIDS」の講義を受講し、各施設の見学を行い、最終日には、チェンマイ大学の教員と学生で英語によるディスカッションを通して受講生は積極的に発言し研修の学びを自分たちの言葉で伝えることができました。帰国便を変更するなど急遽対応が必要なこともありましたが、医学部長、看護学科長、教育部長と教育支援課の皆様のサポートで安全に帰国することができました。今後も、チェンマイ大学と学生の教育プログラムを検討し、安全で安心した研修になるよう取り組んでいきたいと考えています。



修了式での記念撮影

8.14

MBT 研究活動の積極的な展開

MBT研究所の運営会議では、8月31日に実施される奈良県防災総合訓練へのMBT研究のブース出展やけいはんなリサーチコンプレックスとの連携、以前に学内で募集した研究開発グループリーダーのフォロー状況等について、議論を重ねました。会議のなかでは、議題にまつわる新しい提案や、懸案事項の対策などを練り、今後の活動に向けて万全の体制をつくりました。今後も継続して新たなMBT活動を実施していくため、研究所内での議論を重ねていきたいと思ひます。



活動の活性化に向けての議論

Campus News

8.19 ~ 24 「特別支援学校と病院を結ぶアート展」を開催しました

8月19日から24日まで今年で4回目となる「特別支援学校と病院を結ぶアート展」を開催しました。開催に先立ち7月29日には、県立高等養護学校高円分教室から2名の生徒さんが出展者を代表して古家病院長らを表敬訪問し、作品を持参いただきました。

期間中は約1,300名の多くの患者さんやお見舞いの方々から来場されました。絵画、工作、書など90点に及び力作をご覧いただき、「よかった」「素晴らしい」との声をいただきました。

「特別支援学校と病院を結ぶアート展」は、病院において障害者理解を促進する貴重な取り組みです。準備や運営などは養護学校生徒、本学学生、人事課障害者雇用推進係員で行っており、次代を担う人たちの交流が深まる場となっています。また、多くの行政、企業、団体からも後援、協賛をいただき、障害者と患者さんや地域の方々・社会がつながる場となっています。

今後も医療現場における障害者理解と社会参画の取り組みを通じ、地域貢献に努めていきます。



8.19 ~ 22 コンソーシアム実習(奈良医大・早大連携講座)を開催されました

8月19日から22日まで、本学において奈良県立医科大学・早稲田大学連携講座を開催しました。

本学からは、疫学・予防医学 佐伯圭吾先生、地域医療学講座 周藤俊治先生、早稲田大学からは、長谷川恵一先生、野口晴子先生、岩崎尚子先生にご講義いただき、各大学の学生にとって新鮮な経験となりました。

また、最終日には宇陀市立病院での病院見学を実施し、地域医療に携わる医療スタッフの方々からお話を伺い、地域医療に関する理解を深めることができました。

8.20 ~ 24 2019夏の学生災害ボランティア活動

本学の学生11名は和歌山県立医科大学の学生7名と共に8月20日～24日に福島県と宮城県、岩手県でボランティア活動などを行いました。福島県立医科大学にて災害医療セミナーへの参加、気仙沼市、東松島市の伝承館訪問などの被災地視察、南相馬市立総合病院、気仙沼市立病院での講演の受講、南相馬市での傾聴活動などを行いました。なお、今年度の活動は大学とJR西日本あんしん社会財団の助成を受けて行いました。

ボランティアバスに参加して

看護学科1年 宮崎 結奈

私は今回、初めて福島県を訪れました。津波の被害があった所は、新しく堤防や家、お店などを作っていて、一歩ずつ復興しているなど感じました。その一方で原発の近くは帰還困難区域も多くあり、避難が解除された地域でもなかなか住民が戻って来ていません。この現状を見て、8年半経っても、元どおりの生活をできていない方が多くいて、私達はその事を忘れてはいけないと感じました。また医療者となる私達は、災害時にどのような行動をすべきかを考えていく必要性を感じました。現地に訪れて、ナマで見て、聞くことでしか得られないものがあるので、これからもこの活動を続けていきたいです。



8.21 科研費獲得セミナーを開催しました

科研費獲得支援事業の一環として、久留米大学分子生命科学研究所児島将康教授に、「科研費獲得の方法とコツ：申請書作成の重要チェックポイント10」と題し、申請書作成のテクニックに関してご講演いただきました。児島先生のお話は大変分かりやすく、科研費申請初心者からベテラン研究者まで大変熱心に耳を傾けていました。また、質疑では応募を検討している研究者から踏み込んだ質問がされるなど活発なやりとりがあり、来年度の科研費応募への意気込みを感じました。

研究推進課では、今後も科研費獲得に向け、様々なサポートを行っていきたく考えています。



久留米大学 児島教授



セミナーの様子

8.22

血栓止血医薬生物学共同研究講座の報告会を開催しました

昨年の4月に開設した血栓止血医薬生物学共同研究講座の報告会を開催しました。本講座は、小児科嶋教授が立ち上げに携わり、本学の重点研究課題である「血栓止血の制御に関する研究」を進めています。

当日は、細井理事長・学長が開会の挨拶をし、嶋教授に続き坂田助教等が講座での研究成果報告を行いました。奈良医大の得意分野における世界を牽引する研究の成果が着々と上がっており、今後の研究成果の期待がますます膨らみます。

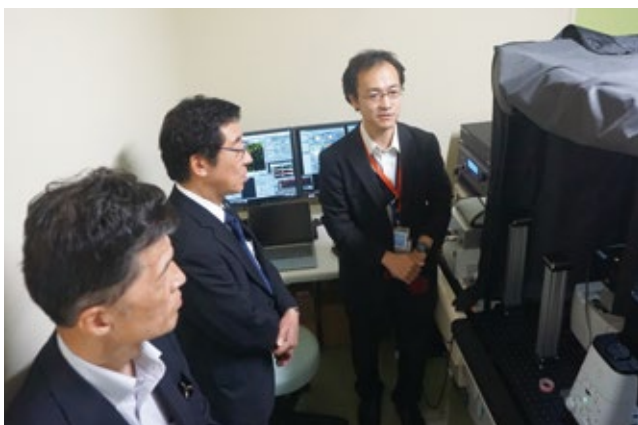


細井理事長・学長の挨拶

8.22

高速多光子共焦点レーザー顕微鏡を導入しました

血栓止血医薬生物学共同研究講座において、新しく導入した高速多光子共焦点レーザー顕微鏡の見学会を実施しました。本顕微鏡では、インビボイメージング技術を用いて、生体内で進行する血栓形成や血栓溶解反応を可視化し、凝固線溶可視化による病態解析を可能とします。坂田助教からの顕微鏡の説明に、参加者は、興味深く耳を傾けていました。



坂田助教の説明

8.27

自衛消防訓練を実施しました

本学では、毎年2回の防災訓練を実施しています。今年度第1回目の訓練は、自衛消防訓練と題し、自衛消防・防災隊がとる災害発生時の初期対応行動の確認訓練を実施しました。冒頭で防火防災管理者である西浦総務・経営担当理事より防災意識の向上が不可欠であると挨拶いただきました。引き続き、本学の「消防・防災計画」や関連する各種活動マニュアルの理解を深める講義の後、火災発生時の初期消火訓練として、消火器の取扱訓練を雨の中実施しました。自衛消防・防災隊は、火災や地震その他の災害等が起こった際、被害を最小限に食い止めるため、消防署の消防隊が到着するまでの初期活動を実施するために職員で構成された組織です。火災や地震などの災害は、いつ、どこで発生するか予測できません。これからも、災害が発生した場合に迅速な初期活動を実施するために、繰り返しの訓練を実施していきます。



8.29

イノベーション・ジャパン2019～大学見本市

8.30

& ビジネスマッチング～に出展しました

大学発シーズを企業等に発表する場として、東京ビッグサイトで、JST(国立研究開発法人 科学技術振興機構)、NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)主催による「イノベーション・ジャパン2019～大学見本市&ビジネスマッチング～」が開催されました。

本学からは、麻酔科学講座 林浩伸講師、新城武明助教、川口昌彦教授が「術中排尿、排便機能モニタリングに対応した電極付き尿道カテーテルの開発」を出展しました。ブースでは、林先生がポスター、サンプルを用い、電極機能を併せ持つカテーテルによる精度の高いモニタリング技術について、来場者との活発な交流を図りました。今後も、本学研究シーズと企業等とのマッチングの機会を場を展開し、発表を行いますのでシーズの提供をお願いします。



出展ブースの様子



企業の方に説明する林講師

8.31 奈良県総合防災訓練にMBT研究所が出展しました

桜井市芝運動公園一帯で行われた奈良県防災総合訓練の訓練エリアに、MBT研究所は、奈良先端科学技術大学院大学等6社と共同で防災通信機器展示と大規模災害を想定した通信デモを行いました。

これは、大災害発生時の通信遮断した被災現場の最前線に衛星車「曼陀羅号」と通信機材を配置し、通信衛星を介して映像でのIP通信網を構築する画期的なものです。

当日は、訓練エリアと奈良医大で待機する地域医療学講座の周藤准教授とのTV会議のデモ実演を行いました。

当日は荒井奈良県知事が展示ブースを視察し、通信デモのTV会議にも参加され、



衛星車「曼陀羅号」

大災害の通信遮断時に通信衛星を介したIP網のTV会議は有力な情報ツールになると注目された様子で、実際の災害発生時を想定した、要請の仕方や事前準備等、具体的な質問もされ、展示の防災通信機器に興味を持たれました。他にも多くの防災関係者がMBT研究所等の展示に興味を持たれ、今後の連携が期待できる展示となりました。



MBTの説明を受ける荒井知事



説明を受ける村井副知事



大規模災害発生時の通信の想定図



TV会議での周藤准教授



展示ブース

9.2 海外からのポリクリ実習生を受け入れています

9月2日から10月11日の日程で、ニュージーランドのオタゴ大学から実習生が来学しました。日本生まれ、ニュージーランド育ちの福島雅章さんは、今回、救急科と産婦人科のサポートの下での実習となりました。実習では大いに学び、日本の文化にも触れ、充実した滞在になった、との感想でした。

国際交流センターあてに、海外の学生からの実習受け入れについての問い合わせがたくさんあります。今年度もすでに、複数名の学生の実習が決定しています。本学ではこのような実習

希望を積極的に受け入れていますので、大学、病院のスタッフの皆さまにも、是非ご協力とご理解をお願いします。

(海外からの研究者、学生の滞在の感想は、国際交流センターの学内ホームページ (VOICE) に掲載しています。)



救急科の福島教授と



救急科の皆さんと(後列右から3人目がご本人)



「産婦人科の皆さんと」(写真中央がご本人)

9.3

奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化委員会を開催しました

奈良先端大との共同研究を加速するために、定期的に連携活性化委員会を開催しています。第3回となる委員会を本学において開催しました。

委員会においては、交流セミナーや研究者交流会などの活動報告や、今後の活動方向について議論を行うとともに、協定大学共同研究助成事業の推薦者選考について議論しました。

この助成事業は両大学の共同研究が今後発展し、さらなる連携強化につながることを目的としています。今回両大学より14件の応募があった中から、各大学2件を推薦することを決定いたしました。

この研究助成事業を契機に、さらなる研究成果に発展することを期待します。



会議の様子

9.4
9.19

令和2年度科学研究費助成事業に係る講演会及び応募申請説明会を開催しました

令和2年度科学研究費助成事業に係る講演会及び応募申請説明会を開催しました。

講演会では、ロバスト・ジャパン株式会社 中安豪氏、松場里弥氏に「科研費制度改革・新様式に対応した申請戦略—学術的「問い」の後略について—」と題し科研費応募のテクニックに関してご講演いただきました。質疑では、応募を検討されている先生方から踏み込んだ質問や講演会終了後も質問で列をつくるなど活発なやりとりがありました。

研究推進課では、今後も科研費獲得に向け、様々なサポートを行っていきたく考えています



ロバスト・ジャパン(株) 中安氏



ロバスト・ジャパン(株) 松場氏



説明会の様子

9.7

公開講座「くらしと医学」を開催しました

本学ではかねてより県民の方々への地域貢献の一環として、日頃の研究成果を分かりやすく提供する「くらしと医学」を開催しております。第43回となる今回は橿原文化会館にて血栓症をテーマに行いました。



小児科学 嶋緑倫教授による健康長寿のための血栓症予防についての講演では、血栓症の起こる原因や引き起こされる症例を、具体的な例や動画を交えてわかりやすく説明していただきました。続けて理学療法士 三木麻梨子氏からは運動による血栓症の予防、管理栄養士 中尾美芳氏からは日々の食事からの血栓症の予防について話していただきました。簡単にできる予防運動を会場全体で実践しながらの紹介や、血栓症防止のために気をつけなければならない食事の塩分量について、普段の食事に含まれる塩分量の計算方法を紹介するなど、来場者が関心を持ちやすい内容をわかりやすく説明していただきました。

いつ、誰がなるかわからない身近なものだからこそ、皆真剣に聞き入っており、熱心にメモを取る人も多く見られました。最後の質疑応答の時間には、講演に出てきた薬についてや、血栓症によいとされる食べ物についてなど多くの質問があり、県民の方々の関心の高さを伺うことができました。

終了後のアンケートでは「わかりやすい解説と内容で、今後の生活に取り入れていこうと思った」「運動と食事の重要性を再認識することができた」などといった意見をいただくことができました。

9.23

MBT 研究所の『「歩く力」の見える化プロジェクト』を出展しました

MBT 研究所の『「歩く力」の見える化』プロジェクトがスタートし、健康フェア 2019 に出展しました。このプロジェクトは、身体に加速度センサーを装着して、歩く力を計測し、運動機能改善にむけたアドバイスをを行うものです。

今回、イオンモール橿原において、身体のバランス・歩く力(推進力)・リズムについて測定しました。この結果をもとに現在の状態や歩き方など今後気を付けた方が良い点などについてアドバイスしました。当日は、多くの方が体験され、自分でも気づかなかった歩き方のクセに驚いていました。

今後も、MBT の研究成果をもとに地域の方の健康増進にむけて情報を発信していきます。



『「歩く力」の見える化』プロジェクトによるアドバイスの様子

9.24 MBT 連携企業の拡大と全国展開

奈良県立医科大学・タカトリ研究分室で、MBT 研究所運営会議を開催しました。8月31日に行った奈良県防災総合訓練での今後の周知方法の検討や MBT ロゴマークを貼付した第1号商品の発表、今後の拡大と全国展開の展望について討論を行いました。

また、11月25日に奈良県が首都圏の企業を対象に開催する奈良県企業立地セミナーへの参加協力についても認識を深めました。

なお、今回新たに MBT リンク株式会社において、MBT を啓発するプロモーションビデオが作成されました。今後各媒体等を通じて、MBT 関連企業・自治体等との連携を積極的に進めます。



タカトリラボでのMBTプロモーションビデオの検証

9.25 解剖慰霊祭を執り行いました

9月25日午後3時から大講堂において、第73回解剖慰霊祭が執り行われました。系統解剖及び病理解剖に貴重なご遺体を提供していただいた方々のご遺族や、奈良医大白菊会会員、関係機関の方々、教職員、学生等、合わせて約400名の方々が参列されました。

今年は新たに、系統解剖29柱、病理解剖41柱の計70柱の御霊を加えて、6,629柱の御霊をお祀りさせていただきました。参列者全員の黙祷の後、学長の祭文奉読、医学科2年生総代の久保伊澄さんの感謝文奉読、参列者の献花と続き、最後に学長からのお礼の挨拶により終了しました。

医学の発展と医学教育のために自らの体を捧げてくださった方々の崇高なご遺志に改めて深い感謝の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



御礼の言葉を述べる細井学長

9.30 実験動物慰霊祭を執り行いました

今年度の実験動物慰霊祭を執り行いました。この行事は実験動物の尊い生命に対し哀悼の意を表すもので、毎年実施しています。

学長の祭文奉読後、関係職員及び学生が献花を行いました。

私たち医学に携わる者は、人間はもちろん動物の生命も尊重しなければなりません。しかし、代替的手段がなくやむをえず動物実験を行うときは、動物に対して博愛的な敬愛を払い、動物への苦痛を軽減し犠牲になる動物数の削減に努めることが必要です。

そして動物の生命から得られた貴重な情報を、研究成果として広く社会に還元していくことが私たちの責務です。



細井学長による祭文奉読



献花する研究者

10.1 シーズ集を発行しました

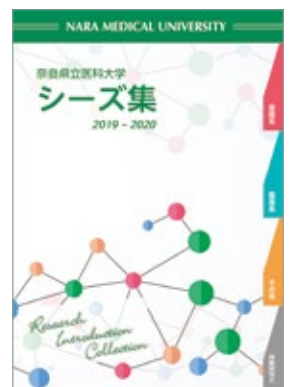
今年度は75名の先生方のシーズ集を発行しました。

シーズ集は、本学に在職する研究者とその研究活動に関する情報を広く社会に紹介し、本学の知的財産を産学官連携活動に有効に活用していくことを目指し作成しております。

シーズは本学のHPで公開する他、冊子版を公的機関や企業の研究開発部門等にも配布しています。

大学の研究成果を社会に還元していくためには、企業等との連携が不可欠です。まずは、大学が何を研究しているのかを知ってもらい、本学と企業等を結ぶ架け橋の役割を、シーズ集が果たしてくれると期待しています。

また、新しいシーズがございましたら、随時受け付けており、本学HPにて公開いたしますので、研究推進課までご連絡ください。



10.4 MBT 技術交流会を開催しました

大講堂において、MBT 技術交流会を開催しました。本学関係者及びコンソーシアム関係者等、大勢の参加があり、細井理事長からは加速的に国内外に広がっている MBT の活動状況の紹介の後、MBT 研究所梅田副所長からはマレーシアプトラ大学で行う MBT の海外戦略について報告がありました。

当日は、MBT での企業との研究成果として、本学と昭和西川株式会社が共同開発した「～耳石に優しい～睡眠頭位調整マットレス」の商品紹介や、その開発の元となった医学的知見を耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原教授の紹介もあり、医学の力がまさに目に見える形となり多くの方々に貢献されていると感じました。

最後に大講堂ロビーで本学教員と連携企業の方々と交えて交流会では、終了時間を超過するほどの議論が行われ、MBT が益々加速していく様を感じる一日となりました。



交流会の様子

細井理事長の開会挨拶

10.6 日本心臓ペースメーカー友の会で MBT の講演をしました

橿原観光ホテルにおいて、日本心臓ペースメーカー友の会主催の公開講座「第 19 回奈良フォーラム」が開催されました。本学から MBT 研究所梅田副所長が、「動きだした医学を基礎とするまちづくり」と題して、本学での MBT の活動紹介や、企業との共同研究の成果である遠隔モニタリングについて、現状や将来展望について講演を行いました。

参加されていた多くの方々は、研究内容が身近であり熱心に聞かれていました。



梅田副所長の講演

10.6 新キャンパス予定地及び現キャンパスにおける発掘調査

新キャンパス予定地では、先行整備の発掘調査を今年度より 3 年計画で行っており、1 年目の一部の発掘調査がこのたび完了しました。また、現キャンパスのグラウンドでは、今年度南西側 1/4 の発掘調査が行われ、3 ヶ年にわたる発掘調査が完了しました。

10 月 6 日に現地説明会が、橿原考古学研究所により行われました。

【新キャンパス予定地の発掘調査】

新キャンパス予定地の発掘調査では、東側で弥生時代前期の遺構が、ほぼ全域で藤原京の遺構が検出されました。

(1) 弥生時代前期の遺構

環濠と思われる溝が検出され、土器や石庖丁の未製品も出土したことから環濠集落が形成されていたと考えられます。

(2) 藤原京の遺構

西八坊大路にあたる南北道が検出され、大路西側は 1 町 (約 130 m) 四方の宅地であったと考えられます。宅地は大宝令の五位相当以下の貴族の屋敷跡と考えられます。



発掘の状況



現地説明会の様子
<写真提供：橿原考古学研究所>

【現キャンパスグラウンドの発掘調査】

現キャンパスグラウンドの発掘調査では、(1) 藤原京の遺構 (2) 古墳 (3) 弥生時代から人が住んでいた痕跡が検出されました。

(1) 藤原京の遺構

西六坊坊間路にあたる南北道に伴う東西両側溝が見つかりました。

(2) 古墳

調査地周辺は四条古墳群と呼ばれる古墳群が形成されており、既に 13 基の古墳が見つっています。今回の調査で直径約 25 m の円墳が新たに見つかりました。

(3) 弥生時代から人が住んでいた痕跡

弥生時代の井戸や土器 (古墳時代の土器を含む) などが見つかり、この周辺に人々が住まいを構えていたと考えられます。:



発掘の状況



出土した古墳時代の土器
<写真提供：橿原考古学研究所>

Campus News

10.8

「女性のための再就職応援フェスタ」に出展しました

本学は今年度、女性活躍推進に積極的に取り組む県内企業で構成される「なら女性活躍推進倶楽部」の会員となりました。

その活動の一環として、イオンモール大和郡山において開催された「女性のための再就職応援フェスタ」に女性研究者・医師支援センターが出展しました。

本学は様々な職種と雇用形態があり、多くの女性が活躍する職場であることをアピールし、当センターの支援事業である研究支援員の募集を中心に求人紹介を行いました。当日は、再就職を希望する女性の声を聴く貴重な場となりました。

今後も女性研究者・医師支援センターでは、様々な活動を通して教職員が活き活きと活躍できる環境整備に取り組みます。



登録証書

展示ブース

10.17

特定個人情報等の保護及び著作物等の利用に関する研修会を実施しました

本学教職員を対象とした、特定個人情報等の保護及び著作物等の利用に関する研修会を開催しました。講師として、樹陽法律事務所の弁護士である林良介先生をお招きし、特定個人情報（マイナンバー等）の取扱いについて法律の説明や取扱い時の注意事項、また漏洩事案の紹介をしていただきました。特定個人情報の取扱いに関しては慎重になるべきだと再確認できる研修となりました。また、研修の中で、著作物等の利用についてもお話ししました。教育が目的の著作物等の取扱いに関する注意について、「学校その他教育機関における著作物の複製に関する著作権法第35条ガイドライン」「学校その他の教育機関における著作物等利用に関するフローチャート」を参考に教えていただきました。



研修会の様子

10.26

学内保育園・なかよし保育園の紹介

昨年10月からなかよし保育園の新館が増築され園児の数も増えて、150名定員の保育園になり、毎日子どもたちのにぎやかな笑い声が響いています。

保育園では、年齢に応じた内容で戸外遊びやこいのぼり製作や七夕など四季折々の行事を楽しんでいます。これからも、子どもたちの健やかな成長を保護者の方と温かく見守っていきたいと思います。

また、保育士を随時募集しておりますので、詳細は、運営委託会社の(株)プライムツワンまたはなかよし保育園までご連絡をお願いします。



春のお散歩
図鑑を片手に虫や花を探したり、走り回ったり。



6月、3階建ての新館が建ち、
はじめての避難訓練
保育士が連携し、子どもたちを安全に避難
させることができました。



夏、0.1歳児は新館テラスで
初めてのプール遊び
はじめは泣いていた子ども慣れてくると笑顔に。



秋の運動会練習
みんなで力を合わせてがんばりリレー



秋の運動会
0歳児 親子ではらぺこあむし
はいはいもたっも上手になりました。



秋の運動会
5歳児 よさこい!!ソーランきりん節!!!
みんなかっこよかったよ!

Winner Report

6.22

第24回日本緩和医療学会学術大会において最優秀演題賞を受賞しました

看護学科 講師 佐竹 陽子

6月21～22日に開催された第24回日本緩和医療学会学術大会において、最優秀演題賞を受賞いたしました。演題名は「救急領域で終末期ケアを実践する看護師の葛藤とバーンアウトの関係」です。このような賞をいただき大変光栄に思っております。これを励みに今後も臨床の看護実践につながるような研究に取り組んでいきたいと考えています。研究にご協力いただいたすべての皆様とご指導いただきました先生方に深く感謝申し上げます。



6.22

第127回日本循環器学会近畿地方会における学生・初期研修医セッション（口演発表）で、優秀演題賞を受賞しました

臨床研修センター 臨床研修医 前川 浩毅

6月22日に京都市にて開催された第127回日本循環器学会近畿地方会における学生・初期研修医セッション（口演発表）で、優秀演題賞を受賞することができました。演題「卵円孔開存のある患者に右室リード抜去後発症した高度三尖弁閉鎖不全に対して外科的治療を施行した1例」は三尖弁閉鎖不全症の中でも非常に稀な状態であり、手術に至るまでの経過を考える上で貴重な症例研究でした。この機会を励みとし今後はさらに、必要な知識・技術を磨いていきたいと思っております。最後に指導して頂きました谷口繁樹教授、阿部毅寿先生、山下先生をはじめ多くの先生方に深く感謝申し上げます。



6.22

第41回日本生物学的精神医学会で若手研究者育成プログラム最優秀奨励賞を受賞しました

精神医学講座 学内講師 紀本 創兵

6月22日から23日まで新潟で開催された伝統ある第41回日本生物学的精神医学会において、本学精神医学講座の学内講師である紀本創兵が若手研究者育成プログラム最優秀奨励賞を受賞しました。本学会の若手研究者育成プログラムは、日本の生物学的精神医学研究の国際的プレゼンスを高めるため、意欲と能力のある若手を育成すること目的で創設され、毎年、若手研究者育成プログラム・奨励賞が公募されます。その後、奨励賞受賞者は、若手研究者育成プログラム最優秀奨励賞選考発表会にて研究の進捗を日本の精神医学研究をリードする審査委員の前で発表し、厳正な選考により最優秀奨励賞が毎年1名決定されます。紀本学内講師は4年前にこの奨励賞を受賞し、本年度の学会において「トランスレーショナルリサーチによる認知機能障害に寄与する神経回路基盤の解明」という演題にて自身の米国との国際共同研究の成果が認められ、名誉ある最優秀賞に選ばれた次第です。今後の精神科診療および研究の益々の励みとなり、当教室の発展に貢献してくれるものと考えます。



7.1

若手研究者研究助成事業の採択について

本学の研究の一層の推進を目指して行われている若手研究者研究助成事業について、下記の研究課題が採択されました。今年度は、17件の応募があり、下記の11名が採択され、それぞれ45万円が助成されます。

若手研究者研究助成事業 採択者

所属名	職	氏名	研究課題名
分子病理学	博士 研究員	羅 奕	細胞間ミトコンドリア移行による癌幹細胞性の亢進と転移促進機構の検討
薬理学	助 教	京谷 陽司	閉塞性睡眠時無呼吸における炎症増幅回路関連遺伝子のエピジェネティクスの解明
脳神経内科学	助 教	江浦 信之	ヒト脳オルガノイドを用いた Mowat-Wilson 症候群における中枢神経病変の病態解明
消化器・総合外科学	診 療 助 教	中出 裕士	Cullin4A を介した消化器癌の進展機序の包括的解明
消化器・総合外科学	診 療 助 教	中川 顕志	治療抵抗性膵癌に発現する特異的な microRNA の特定と臨床応用に向けた検討
消化器・総合外科学	医 員	高木 忠隆	膵癌における CADM1 制御による新規癌治療法の開発
眼科学	講 師	西 智	小児の弱視眼と健常眼における網膜、脈絡膜構造の比較検討
精神医学	学 内 講 師	紀本 創兵	ミトコンドリアからみた統合失調症の認知機能障害を来す脳リズム活動破綻の機序の解明
精神医学	助 教	松田 康裕	高機能自閉スペクトラム症者へのスローエアロビックの効果と生物学的基盤に関する検討
病理診断学	医 員	明神 大也	人工知能を用いた胃癌における病理診断報告書作成支援ツールの開発
臨床研修センター	助 教	岡田 定規	大規模コホートを用いた日本人糖尿病患者の治療状況と発症に関する研究

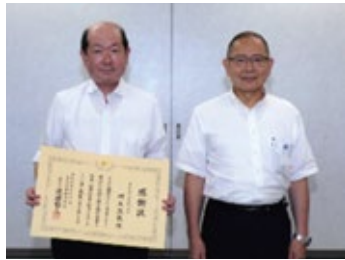
Winner Report

7.11

奈良県警察本部より感謝状を授与されました

口腔外科学講座 学内講師 川上 正良

このたび、令和元年度法医研修会で奈良県警察本部長から感謝状の贈呈をうけました。犯罪捜査において遺体の身元確認を行うことは緊急かつ重要な事項ではありますが、歯牙鑑定は警察捜査に極めて有用な手段となっています。通算10年以上の長期にわたり、これまで90体以上の鑑定を迅速かつ的確に行い、犯罪捜査活動に多大な貢献をしていることに対して授与されました。



7.27

第114回日本神経学会近畿地方会で奨励賞を受賞しました

脳神経内科学 前期研修医 武内 勝哉

7月27日に大阪市で開催された第114回日本神経学会近畿地方会において、初めて開催された若手奨励賞セッション(口演発表)で、本学の武内勝哉前期研修医が奨励賞を受賞しました。演題「頸動脈造影超音波が治療評価に有用であった高安動脈炎の一例」は、高安動脈炎での血管病変の評価において頸動脈造影超音波が病勢を反映する鋭敏な指標となりうることを明らかにした貴重な症例検討でした。本学会の奨励賞は、今回初めて実施され19の受賞候補演題の中から厳正な選考により授与されたものです。副賞では打鍵器をいただき、将来の脳神経内科学診療および研究の大きな励みとなり、今後の活躍を期待しています。



8.20

一般社団法人日本看護研究学会 2018年度奨励賞を受賞しました

精神看護学 講師 奥田 淳

8月20日、日本看護研究学会 第45回学術集会におきまして、2018年度奨励賞を受賞しました。受賞論文は日本看護研究学会雑誌 2017年に掲載されました「閉じこもり傾向にある地域在住高齢者への心理ケアに関する研究—懐メロを用いた回想法による介入の評価—」です。本研究に協力いただきました地域在住の方々、研究のサポートをくださった地域の専門職の方々に心よりお礼を申し上げます。また、研究を行うに当たり多大なご指導をくださった軸丸清子先生に深く感謝申し上げます。



8.27

令和元年度(第2回)若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定(国際交流センター)

令和元年度(第2回)若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、下記の4名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所属(科目)	職名	氏名
生理学第一講座	助教	杉村 岳俊
病原体・感染防御医学講座	助教	平位 暢康
小児科学講座	助教	荻原 建一
口腔外科学講座	大学院生	伊藤 宗一郎

9.2

2019年度ブリストル・マイヤーズ・スクイブ研究助成を受賞しました

脳神経内科学講座 教授 杉江 和馬

このたび、「致死性心筋症から心不全をきたす遺伝性筋疾患の基礎的および臨床的研究」を研究テーマとして、2019年度ブリストル・マイヤーズ・スクイブ研究助成(200万円)を受賞しました。本研究課題は、私が長年研究してきましたDanon病などの自己食空胞を有する筋疾患(自己食空胞性ミオパチー)を対象とした基礎的および臨床的研究で、オートファジー機構の異常を解析して筋変性機序の解明と治療法開発を目指します。本受賞を励みとして、神経筋疾患の予後改善に向けて、今後さらに研究および診療に邁進してまいります。



9.6 令和元年度日本ハイパーサーミア学会
9.7 研究奨励賞を受賞しました

未来基礎医学 准教授 森 英一朗

9月6日～7日に、開催された日本ハイパーサーミア学会第36回大会(埼玉県川越市)において、令和元年度日本ハイパーサーミア学会研究奨励賞を受賞しました。研究課題内容は「温熱ストレスに対する液-液相分離反応に関する研究」であります。本賞受賞を励みとし、今後益々研究に取り組んで参ります。



9.6 令和元年度日本ハイパーサーミア学会
9.7 優秀論文賞を受賞しました

口腔外科学講座 助教 仲川 洋介

9月6日～7日に、開催された日本ハイパーサーミア学会第36回大会(埼玉県川越市)において、令和元年度の同学会優秀論文賞を受賞しました。対象論文の題名は「BRCA2 protects mammalian cells from heat shock」であります。御指導頂いております口腔外科学講座の桐田忠昭教授、共同研究者の未来基礎医学・森英一朗先生および口腔外科学講座・伊藤宗一郎先生に深く御礼申し上げます。今後も益々研究に励んで参りたいと思っております。



9.9 奈良先端科学技術大学院大学との協定大学共同研究助成事業 助成者決定

本学と包括協定を締結している奈良先端科学技術大学院大学との連携研究活動の一層の活性化を推進するため、今年度より協定大学共同研究助成事業を創設しました。令和元年度協定大学共同研究助成事業の奈良医大分の助成者は下記の2名に決定いたしました。

所属	職名	氏名	研究課題名	共同研究者(奈良先端科学技術大学院大学)
循環器内科学	学内講師	尾上 健児	心筋疾患に対するAIを用いた自動病理診断システムと非侵襲的検査法からの病理像予測システムの開発	生体医用画像研究室 教授 佐藤 嘉伸
発生・再生医学	教授	栗本 一基	1細胞遺伝子発現と細胞形態の深層学習による統合解析	分子医学細胞生物学 教授 末次 志郎

インフォメーション

Information

公開講座情報

令和元年度後期 第44回奈良県立医科大学 公開講座「くらしと医学」

開催日：令和2年2月8日(土) 13:30～15:30
場所：奈良県文化会館 国際ホール
概要：人生100年時代を迎えて一健康で長生きするコツをテーマに基調講演とディスカッションを行う。
講演者：奈良県立医科大学産婦人科学 教授 小林 浩 他

対象：県民
定員：1,000名
問合せ先：奈良県立医科大学総務課・県民健康増進支援センター 0744-22-3051(内線2297)

Information

奈良県立医科大学イメージキャラクター しょうとくた医師くんグッズが誕生！！

ローソン奈良医大病院店で販売しています。



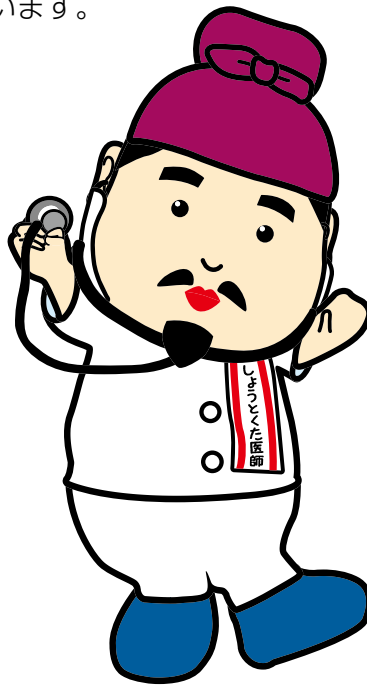
マグカップ



3色ボールペン



クリップマグネット
(直径 3.5cm)



奈良医大イメージキャラクター
しょうとくた医師くん



メモ帳
(10.5 × 15cm)



A4クリアファイル



ぬいぐるみ (20cm)



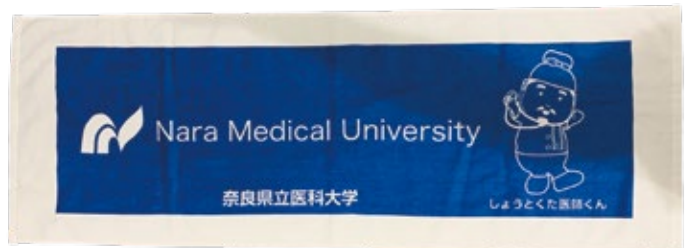
15ヶ月カレンダー
(35 × 73cm)

ぬいぐるみは1月頃、15ヶ月カレンダー11月中旬頃の販売予定です。

◆販売価格(税込)

マグカップ	700
メモ帳 (100枚綴)	180
3色ボールペン	各 480
クリップマグネット	290
Aクリアファイル	95
ぬいぐるみ	1,500
カレンダー	1,000
スポーツタオル	1,100

学園祭で
ご本人がご来店！



スポーツタオル (40 × 110cm)
現在、作成中で、12月より販売予定です。

◆お問い合わせ先 一般財団法人弘済会 TEL : 0744-29-1779 FAX : 0744-29-0366

令和2年度 入試日程【医学部】

学 科	入試区分	募集定員	出願期間	試験日	合格発表(予定)
医 学 科	推 薦*1	38	令和元年12月10日(火)～12月13日(金)	令和2年2月1日(土)・2月2日(日)	令和2年2月12日(水)
	前 期	22	令和2年1月27日(月)～2月5日(水)	令和2年2月25日(火)・2月26日(水)	令和2年3月5日(木)
	後 期	53		令和2年3月12日(木)・3月13日(金)	令和2年3月20日(金)
看護学科	推 薦*2	35	令和元年11月1日(金)～11月5日(火)	令和元年11月24日(日)	令和元年12月10日(火)
	前 期*3	50	令和2年1月27日(月)～2月5日(水)	令和2年2月25日(火)・2月26日(水)	令和2年3月5日(木)
	後 期*4		実施しません		

*1 医学科推薦選抜試験は緊急医師確保特別入学試験13名と地域枠入学試験25名を実施します。*2 看護学科推薦選抜試験は地域枠のみ募集します。社会人特別選抜試験は、平成31年度入学試験をもって廃止しました。

*3 看護学科一般選抜試験(前期日程)は、一般枠40名と地域枠10名を募集します。*4 看護学科一般選抜試験(後期日程)は、実施しません。詳しくはホームページで確認してください(<http://www.naramed-u.ac.jp/university/nyushijoho/index.html>)

看護学科の推薦入試募集要項は9月中旬から配布中です。医学科推薦入試募集要項は11月中旬、その他の募集要項は12月上旬から配布予定です。

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、令和元年10月までに累計2,674件のご寄附をいただいております。なお、今号では、令和元年7月～令和元年10月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

ご寄附いただいた方のご芳名については、本学「未来への飛躍」基金HP(<http://www.naramed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>)に掲載しております。

【個人】

◆1,000万円以上

矢野 寿一様

◆100万円以上1,000万円未満

車谷 典男様 齊藤 正幸様

◆30万円以上100万円未満

青山 恒一様	浅田 秀夫様	油谷令尹子様	伊藤 和男様
伊藤 高広様	上塚 弘様	梅垣 修三様	太田 豊作様
菊川 政次様	吉川 公彦様	熊田 幸江様	齊藤 守重様
城野 憲史様	新名 直樹様	菅波 絵理様	杉江 和馬様
鈴木 秀夫様	鈴木 裕様	高倉 義典様	田中 利洋様
田中 宣道様	田中 康仁様	田畑 尚一様	中垣 滋栄様
中谷 晃様	中林 仁美様	中原 祥文様	橋本 宏之様
畠山 金太様	八田 一郎様	林 博文様	久永 學様
古家 仁様	星田 徹様	細井 裕司様	松本 雅則様
三上 洋様	山上 裕章様	山田 薫様	吉岡 章様
吉川 雅則様	吉村 均様	吉村 佳子様	渡邊 愛子様
渡邊 巖様			掲載を希望されないご寄附者様 11名

◆10万円以上30万円未満

秋岡 勝哉様	今村 知明様	岩田栄一朗様	植村 信子様
上山 健一様	江里口雅裕様	大川 晋一様	奥井 桂三様
金森 正明様	木下 國浩様	久下 博之様	斎藤 宏史様
齊藤 弥穂様	酒井 宏水様	坂本 一喜様	鮫島 謙一様
塩谷 直久様	杉江 美穂様	住田 淳子様	田邊 香様
塚田 周平様	寺本 正治様	二階堂雄次様	畠 生也様
細川 洋治様	堀内 俊孝様	堀江妥永子様	牧之段 学様
松田 良介様	松原 庄一様	松本 雅充様	水本 茂様
水本 保子様	光山 孝慶様	峯 克彰様	室 繁郎様
山田千賀子様	横田 雅子様	若月 幸平様	

掲載を希望されないご寄附者様 24名

◆10万円未満

池端 雅美様	岡田 定規様	角谷 勇一様	狩山 純子様
北村 紀文様	小林 恭代様	小原 孝清様	正畠 良悟様
杉本 靖様	田中 幸博様	西澤 秀美様	西脇 知永様
三上 貞昭様	村上 真也様	矢野富士夫様	吉井 純一様

掲載を希望されないご寄附者様 42名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

荒木 克仁様	植村 師子様	太田 一郎様	岡嶋 克則様
岡田多加子様	小川 浩平様	荻田 恭也様	川上あずさ様
葛本 幸康様	潮見 満雄様	正武 孝規様	杉山 友悦様
洲脇 直己様	瀬戸 靖史様	高濱 潤子様	高濱 誠様
中井 敏幸様	中井 秀典様	中込 将弘様	長田 憲和様
西村 幸洋様	沼畑 千晶様	東谷 秀樹様	東野 正様
平井都始子様	福岡 篤彦様	福住 明夫様	松井 一哲様
松本 恒和様	松本 優香様	鞠子 眞濟様	三浦 幸子様
三橋 二良様	宮川 史様	吉川真由美様	吉治 仁志様

【法人・企業】

◆100万円以上

一般財団法人 弘済会様

◆10万円未満以上30万円未満

医療法人 長尾会 ねや川サナトリウム様
掲載を希望されないご寄附者様 1名

◆10万円未満

掲載を希望されないご寄附者様 1名
(五十音順)

Media Listing Information

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要	
2019年	7月1日 奈良新聞	臨床英語	教 授 Bolstad Francesco	外国人患者への対応方法を教育
	7月13日 毎日新聞			
	7月10日 朝日新聞	眼科学	講 師 吉川 匡宣	Ophthalmologyに掲載
	7月11日 毎日新聞			
	7月21日 地域情報誌「かしらくらぶ」		理事長・学長 細井 裕司	巻頭特集 医学から始まるまちづくり
	7月29日 朝日新聞	化学	教 授 酒井 宏水	人工赤血球 ヒトで臨床試験へ
	7月12日 奈良新聞	医師・患者関係学	教 授 石井 均	患者の痛みを思いやる医師に「心」重視の新講座
	7月25日 神戸新聞			
	8月1日 毎日新聞 他13誌			
	8月14日 ナラプラス			9/7 公開講座「くらしと医学」のお知らせ
	8月28日 日経業界地図 2020			学校情報
	8月29日 読売新聞	老年看護学	教 授 澤見 一枝	類似旅行で認知症予防
	9月6日 朝日新聞			公開講座「くらしと医学」
	9月7日 関西テレビ「関西ニュース」	脳神経外科	病院教授 朴 永銖	シンポジウム「児童虐待を考える」
	9月7日 日本経済新聞			MBT コンソーシアム新商品認定第1号 (寝具の昭和西川)
	9月7日 中部経済新聞 他1誌		名誉教授 大崎 茂芳	著書「糸を出すすごい虫たち」
	9月8日 奈良テレビ「県政フラッシュ」			公開講座「くらしと医学」
	9月13日 毎日放送「ミント」	脳神経内科	教 授 杉江 和馬	東京パラリンピックに出場する患者についてインタビュー
	9月23日 m3 (エムスリー株式会社)	附属病院	病 院 長 古家 仁	漢方外来を2014年から開始。今、漢方が見直されている
	9月24日 奈良新聞			健康フェア2019
	9月26日 日本産業新聞	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教 授 北原 紘	めまいセンターについて
	9月26日 NHK 奈良「ならナビ」	総合周産期母子医療センター	助 教 釜本 智之	RSウイルス感染症に関する注意喚起
	9月30日 NHK 奈良「ニュースほっと関西」			
	9月30日 m3 (エムスリー株式会社)	附属病院	病 院 長 古家 仁	効く人と効かない人の差が大きいの漢方。専門医の育成が急務
	10月3日 奈良新聞他6誌			新キャンパス発掘調査で藤原京期の貴族の邸宅の可能性のある建物跡などが見つかる
	10月5日 奈良新聞他4誌			現キャンパスのグランド発掘調査で新たな円墳が見つかる
	10月20日 中四国・関西医事新報社	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教 授 北原 紘	治療及び研究について
	10月23日 NHK「ガッテン」	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教 授 北原 紘	めまい研究について

編集後記

季節は一気に秋から冬に変わっていきますね。朝晩が寒くなってきましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。学報 70 号も皆様からのご協力をいただき発行する事ができました。ご協力・ご支援いただいた皆様に深く感謝いたします。「学報」では、職員の皆さんからの記事を随時募集しておりますので、広報室まで連絡をお願いします。



このページに広告を掲載しませんか？くわしくはこちら

→ <http://www.naramed-u.ac.jp/university/gaiyo/shokai/gakuho/index.html>

学報バックナンバーはwebサイト上でもご覧いただけます。(<http://www.naramed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)